

2002年度

講義計画

桃山学院大学

一

二

三

四

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	18	春学期	2単位	永 田 淳 次
	19	秋学期	2単位	
	20	春学期	2単位	
	21	秋学期	2単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>コンピュータはその名前が示すとおり、計算が得意な機械として生まれてきた。このデータを高速で処理するという特長を活かし様々な情報を処理する道具として発展してきている。現在では、電子メールに代表されるようにコミュニケーションのための道具としても利用されている。</p> <p>本講義では、初心者がコンピュータやコンピュータネットワークの概要を理解するとともにその周辺の知識を深めることを目標としている。</p> <p>また、コンピュータの基本的な操作を習熟するために、実習を中心に講義を進める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの概要と基本的な操作 2. メールによるコミュニケーション 3. インターネットの基礎知識 4. プレゼンテーション 5. 表計算ソフトウェアの利用 6. 日本語文書の作成 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
提出された課題レポートの総合評価。出席は3分の2以上。	<p>桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』</p> <p>[注意]</p> <p>本授業は、コンピュータ利用経験の浅い初心者を対象としている。コンピュータ利用経験者を対象としていない。</p>			
[教科書]				
必要に応じてプリントを配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用Ⅰ	22	春学期	2単位	ハク 修 賢 朴 スーヒョン
	23	秋学期	2単位	
	24	春学期	2単位	
	25	秋学期	2単位	
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>現代社会において基礎的な機能として要求されているコンピュータの基本知識や操作方法の習得を学習目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. OS やキーボード操作などパソコンに関する基礎的な知識を身につける。 2. ワードプロ (Word)、表計算 (Excel)、プレゼンテーション (PowerPoint) などのソフトの使い方を習得し、簡単な報告書の作成を目指す。 3. 電子メールやインターネットの利用法を習得する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンの基礎知識 2. Word の操作：文書の編集 3. Excel の操作：効率のよい表の作成、数式と関数、グラフ機能 4. Powerpoint の操作：プレゼンテーション機能 5. インターネット 6. 電子メール 			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
出席、宿題、期末レポートによる総合評価	<p>特に指定しないが、市販の参考書を適切に利用する。</p>			
[教科書]				
開講時に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	26 28 30 32 34	春学期 春学期 春学期 春学期 春学期	2単位 2単位 2単位 2単位 2単位	水口 薫
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作するだけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> <p>講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりとしたペースでの反復学習を行う。</p>	<p>1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要</p> <p>2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習</p> <p>3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）</p> <p>4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト）</p> <p>5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト）</p> <p>6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付）</p> <p>7. コンピュータの可能性について</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価				
[教科書]				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用 I	27 29 31 33	秋学期 秋学期 秋学期 秋学期	2単位 2単位 2単位 2単位	水口 薫
[講義概要・学習目標]	[講義計画]			
<p>近年、特殊な分野、専門性の強いものと思われていたコンピュータとその利用の機会、情報化社会において、その発展には著しいものがある。その必要性は学習・研究、ビジネスでも普通のものとなり、さらにネットワークの普及は、インターネットのように、瞬時に世界と情報のやりとり、コミュニケーションができるようになってきている。</p> <p>本講義では、コンピュータをまさにパーソナル・コンピュータ、個人の道具として使いこなす基礎知識とその操作を身につけると同時に、コンピュータ・リテラシー（操作するだけでなくどのように活用するかという能力）を学習する。</p> <p>講義の進め方は、初心者が最後まで行えるよう、ゆっくりとしたペースでの反復学習を行う。</p>	<p>1. パーソナル・コンピュータ（パソコン）とOSの概要</p> <p>2. コンピュータの基礎操作とキーボード練習</p> <p>3. 文章の作成（文字変換機能、ワープロソフト）</p> <p>4. データの概念と処理（表計算、データベースソフト）</p> <p>5. ネットワークと情報検索（インターネットソフト）</p> <p>6. ネットワークの情報交換（e-mail、データ転送・添付）</p> <p>7. コンピュータの可能性について</p>			
[成績評価の方法]	[参考文献]			
講義時の課題、レポート、出席により総合評価				
[教科書]				
「桃山学院大学計算機センター・ユーザーズガイド」 桃山学院大学計算機センター（編） 受講者に配布				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用I	3 5	春学期	2 単位	井上 敏
	3 6	秋学期	2 単位	
	3 7	春学期	2 単位	
	3 8	秋学期	2 単位	
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、初心者を対象に、コンピュータを操る基礎の練習を行う。具体的には、キーボード入力、ワープロ、表計算、電子メールの基礎を練習する。</p> <p>本講義は、コンピュータに触ったことの無い初心者に対するコンピュータ入門を目的としている。経験者が受講申請すると、本来受講すべき初心者が受講できなくなるので、ある程度心得のある諸君は他の機会を探されたい。</p> <p>また、実習主体の講義であり、自習も必要となる。積極的に出席した上で、自由時間を活用して自習を進めないと単位修得は困難である。登録時には、このことに留意した上で登録を行うこと。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>下記の項目について説明した上で、実習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコンについて ・キーボード入力 ・電子メール ・ワープロソフト ・表計算ソフト ・ホームページ入門 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、および実習の成果により評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>進行状態に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>桃山学院大学情報センター編『ユーザーズガイド』 (最初の授業で支給します)</p>				

「論述作文」クラス一覧

クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ	クラス	担当者	ページ
01	岡本 洋之	95	07	竹中 暉雄	98	13	三浦 俊介	101
02	木下 昌巳	95	08	生瀬 克己	98	14	安田 真一	101
03	小柳 伸顕	96	09	並川 宏彦	99	15	柳父 章	102
04	佐藤 慶子	96	10	深澤 徹	99	16	清原 泰司	102
05	杉岡 信行	97	11	藤井 肇	100	17	小早川義則	103
06	滝澤 武人	97	12	藤原 健	100	18	佐藤 慶子	96

1. 実習的性格をもつ授業のため、1クラスの受講生は30名以内に制限します。従って応募者が定員を超えた場合は、クラスへ参加できないことがあります。
2. どのクラスも出席を重視します。一定の成果をあげるために、持続的な訓練が欠かせないからです。
3. 授業を円滑に運営し、よりよい成果をあげるために、上記「クラス一覧」のとおりクラス分けをします。
4. 02生については、学則上この科目は「共通自由科目（4単位）」に位置づけられています。
5. 履修登録にあたっては、以下のとおり事前に**予備登録（先着順ではない）**が必要です。

対象者：02（E・SS・SW・B・LE・LI）生は（01～18）クラス対象
02J生は（02・04・08・15）クラス対象

定員：30名

日時：4月4日（木）～4月6日（土）学務課執務時間内
平日：9:10～16:40（11:30～12:30 昼休憩）
土曜：9:10～13:00（6日のみ昼休憩なし）

場所：自由投函箱（学務課ロビーに設置）

クラス発表：4月10日（水） 聖アンデレ館下掲示板

- 申込方法：①「論述作文予備登録票」（新年度書類在中）に必要事項を記入し提出してください。
- ②希望するクラスを3つ以内で記入してください。
ただし、同一クラスを記入することはできません。また、入学式に配布した「個人別指定クラス一覧」の曜日・時間と重ならないようにクラスを選定してください。
- ③記入された時間割コードとクラス名が一致しない場合は、時間割コードにより処理するので注意してください。

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	01	通 期	4単位	岡 本 洋 之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私はかつて英国に滞在していたとき、現地の人々からさまざまな質問を受けた。「Japan とは、どういう意味をもつ言葉なの?」、「TOKYO と KYOTO は字が入り替わった綴りになっているけど、どうしてなの?」、「サムライって、そもそも何なの?」、「日本の北の方にはヒゲの濃い民族が住んでいるんでしょう?」等、等。私はこれらの質問に答えながら、学校で与えられた知識はその多くを忘れているのに、多少とも自分で疑問をもって調べたことはしっかりと覚えていることに気がついた。</p> <p>自ら疑問をもち、それを追究するなかで発見したことを、文章にまとめる——これこそみなさんが大学で行なうべき学問であり、研究である。それは、すでに先人が発見したことを完成品とみて頭に詰め込む「勉強」とはまったく異質の、いわば知的生産の作業である。</p> <p>「勉強」のできる人が幅をきかす時代は終わった。これからは、知的生産のできる人が生き残るであろう。そこで本授業では、みなさんが自ら問いを立て、それを追究し、結果を論文にまとめるという、研究の基礎訓練を行なう。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【前期】まず、「私の夢」(仮題)等の短い作文作業を通じ、論文のテーマを絞りこんでいく。テーマ決定後は書目や情報カードを作成しながら、論文のアウトラインを作りあげていく。</p> <p>【後期】秋に論文下書きを完成し、冬に清書を仕上げる。論文は長くなくてもよいが、序(本研究の目的と方法)・本論・結論・注の体裁が整っていることを要する。</p> <p>★なお講師は本来出席をチェックすることを好まないが、各自の進行状況を把握したり、文章作法等についての指導をする必要上、みなさんには毎回出席して教室で作業することを求める。</p> <p>★これまでの受講生が取り組んだテーマの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「静岡県がサッカー王国になったのはなぜか?」 ・「千利休が切腹させられた真の理由は何か?」 ・「空手にはどのような歴史があるか?」 ・「アメリカン・ロックには米国社会のどのような点が反映しているか?」 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>テーマ報告書や情報カード、論文下書き、清書等の提出物の評価に、主要なウェイトを置く。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫) 保坂弘司『レポート・小論文・卒論の書き方』(講談社学術文庫) 澤田昭夫『論文のレトリック』(講談社学術文庫) 吉群延治『論文・レポートのまとめ方』(ちくま新書) 宅間紘一『はじめての論文作成術』(日中出版)</p> <p>★他にもあるが、授業中に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>木下是雄『レポートの組み立て方』(ちくまライブラリー)1990年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	02	通 期	4単位	木下昌巳
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>文章の大きな目的は、自分の考えていることを文章によって自分以外の人に伝えることである。せっかくよい考えをもっていても、ただ漫然と書いてあったら、それはなかなか読み手には伝わらないだろう。たとえば大学の授業の課題として提出するレポートを書くときに、どれほど綿密に資料を調べたとしても、どれほど独創的な考えを持っていたとしても、読み手に理解されるような仕方と適切に整理され論理的に書かれていなければ、それはけっしてよいレポートにはなりえない。文章にはしかるべき書き方がある。この授業では、文章を実際に書くことを中心として、広い意味で文章を書く技術を身につけてもらうことを目指す。それに加えて、図書館の使い方、資料の集め方、ワープロソフトの操作法の練習なども授業のなかに取り入れる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>ひと月に1本のペースを目標として、年間に6本程度書いてもらう予定。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>提出された作文による。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	03	通 期	4単位	小 柳 伸 顕
[講義概要・学習目標] 書くことは、自分の考えをまとめて、他人に伝えることである。書くことを通して、出来事だけ、正確に自分の考えや、意思を伝える訓練をする。また、他人の書いたものを通して、相手の考えを知り、そのために授業ごとに小論(600字~800字)を書き、添削する。また、学生が相互に批判する。	[講義計画] 1. 自分について書く。 2. 他人の話をきいて、それをまとめる。 3. 「テーマ」について書く。たとえば「人権」 4. 書いたものをみんなで討論する。 5. 本を読んで感想を書く。一夏休みの課題。 6. 自分でテーマを定め、少々長めのものを書く。これを学年末に提出する。 * 提出した小論は、各回ごとに添削する。一返却。			
[成績評価の方法] 授業ごとに小論の提出、出席。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	04 18	通 期 通 期	4単位 4単位	佐 藤 慶 子
[講義概要・学習目標] 書く力の低下が言われて久しいが、話し、聞き、読む能力を土台として、初めて確立されるものであり、意思伝達の訓練が、人間関係を築く上で、いかに重要であるかを、再認識してもらえらるだろう。	[講義計画] <前期> (1) 原稿用紙の使い方。 (2) 自分の思い、考えを、より正確に相手に伝えるための表現法。 <後期> (1) 敬語の使い方。 (2) 礼儀正しく、心のこもった、手紙の書き方、電話の掛け方。			
[成績評価の方法] (1) 出席(最重視) (4) 提出物 (2) 前・後期末試験 (5) 発表 (3) 夏期休暇中の課題 (6) 授業中の態度	[参考文献]			
[教科書] 市販のテキストは使用せず、講義中の板書と解説に、配付したプリントを併せて、一生、役に立つノート作りを目指す。	必要に応じて紹介する。			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	05	通 期	4単位	杉 岡 信 行
[講義概要・学習目標] 授業では、研究レポートや小論文が作成できるようになることを目標とする。原稿用紙の使用法から始めて、レポート作成に必要な文章表現やさまざまな知識を年間を通して学ぶ。その中には、本学図書館での文献検索の実習も含まれている。コンピュータによる文献検索に慣れていただきたい。 また授業では、計算機センターのパソコンにより、ワープロ原稿の入力を行う。データや文書が保存されているフロッピーディスクは必ず携帯してください。センターでの授業は月1回行う予定。	[講義計画] (前期) 初めに計算機センターでワープロガイダンスを受ける。授業中には400字×2枚程度のレポートを書くようにする。夏期休暇中のレポートは、自由課題として400字×5枚程度を宿題とする。 (後期) いくつかのテーマを課題として、長いレポートが書けるようにする。また、夏期レポートを発表してもらおう。他者の発表を聴きとり、質問したり意見を述べたりできるようになる。そして、その発表内容を最終レポート(400字×10枚程度)に仕上げる。			
[成績評価の方法] 出席数、レポート作品数などから総合的に評価する。	[参考文献] 野矢茂樹著『論理トレーニング』産業図書			
[教科書] 木下是雄著『レポートの組み立て方』(筑摩書房/ちくま学芸文庫)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	06	通 期	4単位	滝 澤 武 人
[講義概要・学習目標] 原稿用紙の書き方からはじめ、とにかくさまざまな文章を心をこめて丁寧に書くということを最低限の目標とします。毎週800字前後の作文を書いてもらい、短評を付して返却します。「書く」という作業を通して、自分自身の「生き方」について自覚してもらいたいと思います。また、今年度は他者の文章を「読む」ということをも重視します。	[講義計画] 毎週の作文テーマは、誰でもが書きやすいようなもの、そしてどこかで自分の「生き方」と関わるようなものを指示します。たとえば、「おいたち」「思い出」「初恋」「旅」「スポーツ」「音楽」「映画」「クリスマス」「生と死」「セックス」「俳句」「手紙」などです。 夏休みと冬休みには、4000~5000字の文章を書いてもらう予定です。			
[成績評価の方法] 出席と平常点	[参考文献]			
[教科書] 林 望 『日本語の磨きかた』(PHP選書)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	07	通期	4単位	竹中暉雄
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>信号音を使って相互にコミュニケーションをとる能力は人間以外の動物にも存在するが、しかし文章を書くということは、人間のみの特殊な能力であり特権でもある。その文章能力が、音声文化・映像文化の発達とともに次第に低下しつつある。またパソコンの普及に伴って、ペンや鉛筆を使って文字を書くこと自体も苦痛になりつつあるし、漢字の記憶があやふやになってしまうことは、私自身もよく体験することである。しかし文章を文法的に正しく、かつ論理的に、そして魅力的に作成するという事は、単に関いたり見たりする作業とは違って、非常に能動的な「考える」作業であり、頭脳をフル回転させなければならぬ。ところがこのような能力は、日ごろ、ペンをもって文章を書くということから離れていると、急速に衰えていくのである。</p> <p>この授業では、いろいろな悪文の文章例によって、文章を書くときに注意すべきちょっとしたことがらを意識することから始め、文を書くことが苦痛でなくなり、むしろ楽しみとなることを目標とする。しかしそれだけではなく、他人の文章や話しを読んだり聞いたりしてその要点をまとめたり、年度末には各自が設定したテーマに基づいて集めた資料を引用した、ある程度まとまった論文を完成することにする。</p> <p>現代の大学生にとって、不可欠有意義な授業（講義ではない）にしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（現代社会における論述作文の必要性） 2 各種教材を使った悪文例の検討 3 指示テーマによる作品づくり 4 自由テーマによる作品づくり 5 受講生による講義の要約（資料は用意します） 6 各自テーマの設定および資料収集 7 ワープロ（パソコン）による文章作成 8 修了論文の作成および論文集の編集制作 <p>以上のような内容をいろいろ組み合わせながら授業を進めます。毎回の授業終了後、課題の作品を提出していただき、次回に添削を加えて返却します。欠席・遅刻をすると、作品の提出に支障が生じますので、注意して下さい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>もちろん各自の作品および出欠。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>使用しない。授業中に教材プリントを配布。</p> <p>国語辞典は必携</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	08	通期	4単位	生瀬克己
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この科目は、大学における学習・研究に必要な論理的で明快な文章を書くための訓練が目的である。具体的には、論述式の答案やレポートを作成するための文章形式の習得を目的としている。同時に、論述形式の文章を実践的に作成してもらうことも重要な目的である。</p>	<p>[講義計画]</p> <p><春学期> いろいろな種類の文章になれることから始めて、そのような文章の作成に習熟することをめざす。</p> <p><秋学期> 各講義ごとに特定のテーマを設定して、そのテーマにそった800-1000字程度の小論文を作成してもらうことで、論理的な文章の作成に習熟してもらう。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>各回ごとの参加態度の熱心さや、誠実な参加態度が求められる。当然、出席率の高さを要求することになる。それらを前提にした「平常点重視」となる。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>必要ときに、適宜紹介します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特には指定しません。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	09	通 期	4単位	並 川 宏 彦
[講義概要・学習目標] 文章を深く読み、その内容を理解し、自分の言葉で表現する能力を養う。また、論議の場での発言の準備や、読者の立場を考慮した文章の書き方を学ぶ。	[講義計画] 前期：論文の書き方、構成、表現の工夫について学ぶ。中期：読者の立場を考慮した文章の書き方について学ぶ。後期：論文の発表の仕方について学ぶ。			
[成績評価の方法] 提出された文章で評価する。	[参考文献]			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	10	通 期	4単位	深 澤 徹
[講義概要・学習目標] 最終的な目標は、論議的文章が書けるようになることである。そのための基礎作業として、大学における学生としての基本的な行動様式を学ぶ。図書館の利用法や、文献の検索、レポートの書き方や、口頭発表の仕方など、ごく基本的なことを学習する。	[講義計画] 前期：大学生としての行動様式を身につけることと並行して、書きやすいテーマでのレポート提出を義務づける。 後期：特定のテーマを設定し、共同研究しながら、その成果を口頭で発表し、最終的な論議文章を完成させる。			
[成績評価の方法] 出席状況はもちろんのこと、いくつかのテーマに基づく課題レポートをきちんと提出し、なおかつ口頭発表に基づく最終的な論議文章の作成をもって総合的に評価する。	[参考文献]			
[教科書] 西研/森千有彦「考えるための小論文」(ちくま新書)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	11	通 期	4単位	藤 井 肇
[講義概要・学習目標] 思っていること、考えていることが相手にきちんと伝わるように書く。これが意外と難しい。うまくまとまらなかつたり、ちゃんと理解してもらえなかつたりする。わかりやすい文章を書くにはどうしたらよいか。テーマのしぼり方、まとめ方、表現法などを具体的に学んでゆく。あわせてことばの持つ力なども考えてみたい。	[講義計画] 随時、課題を出し、作文を書いてもらう。それぞれ添削をいし講義評を付けて返す。教室では案作例を中心に話を進める。			
[成績評価の方法] 課題作文の評価や出席状況などを総合的に。	[参考文献] 随時、挙げる。			
[教科書] 特に指定しない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	12	通 期	4単位	藤 原 健
[講義概要・学習目標] 言語の四技能と言われる「読む」「書く」「聞く」「話す」のうち、現代社会においては、読む機会や話す機会が多いのに、特に「書く」という機会はあまりないように思われる。ことばを使って表現するのに大切なことは、表現力を養い、それを伸ばすことである。そのためには、ことばをただ単に知識として知るだけでなく、正確に意味を理解し、正しい使いかたを身につけなければならない。 この講義・演習では、文章を書くことの基本から始め、レポートや論文を書くときの要領を考え、ことばや文章についての考察を行う。また、実際に何度も書いてみるという作業を通して、最終的にはまとまった論文が一人で書けるようになることを目標とし、適宜講義も行う。また、後期には自分の意見を人の前で述べる練習として、テーマを与えてディスカッションを行い、それを小論文の形にまとめる練習も行う。 また、授業内容に合わせて、図書館実習、ワープロ実習も行う予定である。2年生以上も登録することができるが、パソコンの操作等については、ごく基本的なことが中心になるので、その点は納得の上で登録してほしい。	[講義計画] 1. 文章表現の基礎 1) 用字法・句読法 2) 原稿用紙の使いかた 2. 文章表現の演習 1) テーマを決めて書く 2) レポートの書きかた 3) 小論文・論文の書きかた 3. 文章の構成 1) 内容・テーマ 2) 構成 3) 表記・表現 4) 推敲 5) 評価 4. ディスカッション 5. 図書館実習 (文献の探しかた) 6. ワープロ実習 (パソコン、ワープロの操作)			
[成績評価の方法] 授業の中で指示する課題・作業について、提出・発表したものをもとに評価する。また、夏休み、冬休みには課題を出す。課題のために、テキスト以外に、新書を1冊購入してもらう予定である。詳しくは、授業初回に説明する。 なお、授業で使用する原稿用紙は当方で用意する。購入の必要はない。	[参考文献]			
[教科書] 吉田健正(著)『レポート・論文の書き方』(ナカニシヤ出版)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	13	通 期	4単位	三浦 俊介
[講義概要・学習目標] 三浦の「論述作文」はレポート・論文の書き方を修得することを学習目標としている。学生諸君は、前期のうちにレポートの書き方の基本を学習し、前期レポートを書く。後期は前期レポートを訂正・増補して、修了論文を書く。学生諸君の修了論文は論文集として印刷・製本する。できれば合評会も開きたい。「論述作文」で学ぶことはゼミの論文執筆や成績アップの問題だけでなく、論述式のテスト全般や就職試験などにもきっと役立つだろう。しかも、今年から4単位になった。本学以外に「論述作文」という講座を、少人数制度で開講している大学のことを聞いたことがない。「論述作文」は本学独自の講座である。三浦は、この、他に例のない、すばらしい講座の恩恵にあずかれないのは損だと思う。担当が三浦である必要はない、とにかくできるだけ多くの学生に「論述作文」を受講してもらいたい。	[講義計画] 講義は以下の内容で進める予定である。 1、ガイダンス(年間計画・自己紹介など) 2、原稿用紙の使い方(縦書き・横書き) 3、ワープロソフトの使用(計算機センターで) 4、レポート・論文の手順(ビデオを見て) 5、レポート・論文の構成(起承転結・双括型など) 6、事実と意見を混同するな 7、短文のすすめ 8、逆茂木型の文章を回避せよ 9、段落意識を持つ 10、重要なことを先に書くことの重要性 11、引用と要約 12、補注と参考文献 13、レポート・論文の仕上げ 毎回何らかの作業を課す予定である。			
[成績評価の方法] ① 年度末の修了論文を重視する。修了論文を出さないと不可。 ② 毎回出席を取り、評価の参考にする。欠席過多者は不可。 ③ ほぼ毎回の提出物も重視する。	[参考文献] 清水幾太郎『論文の書き方』(岩波新書)岩波書店 辰濃 和男『文章の書き方』(岩波新書)岩波書店 小河原 誠『読み書きの技法』(ちくま新書)筑摩書房 古郡 廷治『文章添削トレーニング』(ちくま新書)筑摩書房 その他多数。随時紹介する。			
[教科書] 木下是雄『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫)筑摩書房				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	14	通 期	4単位	安 田 真 一
[講義概要・学習目標] 論述するということは、日常の会話や携帯のメールと似ているけれども異なるものだ。相手に自分の考えや感情などを伝えるためには、場合によっては相手の感性に訴えかけた方が伝わりやすいときもある。しかし、論述するということは、感性ではなく、論理性に依拠し、自分と異なる立場や言語感覚の持ち主に対してにも、なるべく正確に自分の意図を伝える作業である。このような文章は、実際に書いてみないうまにならない。ただし、問題意識や好奇心などが希薄で、ただ漠然と量を書いたところでうまはならない。また、いくら問題意識や好奇心があっても、対象を分析し、論理的に構成する「道具(ツール)」がなくては、意図を伝える文章にもならないと考える。そこで、一つの分析概念として「ジェンダー」を取り上げる。対象に対して批判・批評意識を持ち、そのうえで多くの文章を書き、文章の構成法を身につけてほしい。	[講義計画] 前期は、テキストを読み、その内容についての解説を中心におこなう。その際、意見を求めるので、積極的に参加すること。またその都度、テキストや講義のまとめ、身近なジェンダー認識に関わる事柄についても文章化し、それらを提出してもらおう。 セクシャル・ハラスメント・ドメスティックバイオレンス、流行や経済、福祉など、あらゆるものが分析の対象としてある。普段から意識的にあらゆる対象を眺め、問題意識を高めていってほしい。 後期は、前期の応用として与えられたテーマについて数回レポートしてもらいつつ、それぞれが設定したテーマに沿って、各々資料の収集などの準備をしてもらう。その上で、修了にあたる10枚程度の論文を作成し、提出してもらおう。 また、原稿用紙は各自が準備すること。最終的にはパソコンによる文章作成をおこなうので、計算機センターでのワープロガイダンスを受けておくこと。			
[成績評価の方法] 講義時の平常点(提出物を含む)、および前後期のレポートによる。出席することを前提とする。	[参考文献] 講義中に、適宜紹介する。			
[教科書] 江原由美子『ジェンダー秩序』 (新曜社/2001年・3500円)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	15	通 期	4 単位	柳父 章
[講義概要・学習目標] 学生諸君の肉体はもう大人だが、精神はいま形成途中である。大学生活は若者の精神形成にもっとも大事な時期であり、文章を書くことは精神形成の重要な手がかりである。 このことを踏まえて、毎時間に取り上げるテーマであるが、始めは自己紹介の文、次は友達紹介の文などから、自分の体験、とくに内面精神の形成についてのテーマ、というように、身近な文から始まって、次第に、社会問題、政治問題、思想的問題など、抽象的なテーマについて書いていく。 論文の勉強であるから、自分の考えを、明快に、論理的に表現できるように教えたい。	[講義計画] 毎時間、まず担当者がテーマを出し、そのテーマについて説明し、次に参加者学生に、400字詰め原稿用紙で2枚程度で書いてもらい、それを提出させ、採点する。次の時間に出来のいい論文を読み上げたり、全体の出来を批評したりする。 論文用紙は生協で販売している「コクヨの800字詰め原稿用紙」を購入して、始めの時間、そして以後毎時間の授業に持ってくること。 そして夏休み後、この授業の終業論文を書いてもらう。時間をかけて、自分が大事だと思うテーマをじっくり完成する予定である。			
[成績評価の方法] 毎時間提出してもらった論文と、後期の終わりに完成する終業論文との総合結果で評価する。 別に試験はおこなわない。	[参考文献] 私じしんの作文方法についての著書などを、随時取り上げるが、そのテキストは、その時々で紹介する。			
[教科書] とくにない。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	16	通 期	4 単位	清 原 泰 司
[講義概要・学習目標] 社会において利害や意見の対立する諸問題について、自己の意見を読者にわかるように文章表現できることを目標とする。	[講義計画] 下記の順序で、論述作文の能力を培う。 1 今、社会で議論されている様々な問題について、自由討論する(題材は、新聞、雑誌、本、テレビ番組などから自由に選択する)。 2 各自が関心を持った問題について調べる(調べ方については、適宜、アドバイスをを行う)。 3 各自が調べたことをまとめ、レジュメを作成し、それを報告する。 4 報告を相互批評する。 5 相互批評を踏まえて、論文を作成する。			
[成績評価の方法] 出席、レポートの内容を総合評価する。	[参考文献] 適宜、指示する。			
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
論述作文 (旧論述作文(2))	17	通 期	4単位	小早川 義 則
【講義概要・学習目標】 本講義では、文学的表現方法ではなく、法学や経済学など比較的硬い社会科学系の論文やレポートの書き方の習得を中心課題とする。正確な資料に基づいた文章による論理的思考の積み重ねは、将来どのような職業に就くによ、一生の財産になるはずである。	【講義計画】 まず書くことから始める。当初は比較的身近な新聞記事を素材とし、その内容、問題点をとりまとめ、優秀なレポートを公表し相互に検討する。その後、各自の興味を覚えたテーマについてレポートを提出し、教員の検討、添削を経て修了論文を完成することとしたい。			
【成績評価の方法】 報告内容を含めた平常点によるが、出席状況を重視する。	【参考文献】 必要に応じて適宜指示する。			
【教科書】 とくに使用しない。				

「演習Ⅰ」クラス・研究テーマ一覧

クラス	担当者	研究テーマ	ページ
01	荒木 英一	早わかり経済学	108
02	一ノ瀬 篤	時事経済問題解説	108
03	矢根 真二	コミュニケーションで始める経済学	109
04	桂 昭政	これからの日本の市場重視社会（競争社会）について考える	109
05	河合 勝彦	社会科学とコンピュータ	110
06	木村 二郎	日本経済入門	110
07	熊谷 次郎	現代の日本経済	111
08	巖 善平	日本とアジアの経済関係を考える	111
09	佐賀 朝	地域の問題から現代社会を考える	112
10	鈴木 健	経済学入門	112
11	竹歳 一紀	経済と経済学の基本を学ぶ	113
12	竹原 憲雄	開発援助の経済学	113
13	津田 和夫	現代日本の金融と財政投融资	114
14	義永 忠一	地域社会における中小企業論	114
15	藤間 真	「世界市民」にふさわしく学び生きる	115
16	中村 勝之	大学の「出口」について考える	115
17	野田 知彦	経済学の基礎	116
18	前田 治郎	経済記事を読む	116
19	モハメド ザファル	世界経済の中の日本	117
20	望月 和彦	「世の中は左様然らば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす！	117
21	望月 和彦	村上さんに学ぶ経済学	118
22	藤田 香	やさしい経済学－基本のきほん	118
23	藤田 香	やさしい経済学－基本のきほん	118
24	藤田 香	やさしい経済学－基本のきほん	118

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	01	通期	4単位	荒木英一
[演習概要・学習目標] 前期は、テキストの輪読などを通じて、日本経済のおおまかな様子 と経済学の基本的な概念や考え方を学ぶ。後期は、いろいろな経済記 事を輪読しながら疑問点をあげて一緒に考えていくことにする。余裕 があれば、各自が興味を持つ記事について報告してもらう。	[演習計画] 前期： テキストの輪読と講義 後期： 適当な経済記事の輪読（追ってコピーを配布） 各自の簡単な報告			
[成績評価の方法] 出席を重視する。	[参考文献]			
[教科書] 適宜に指定する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I (時事経済問題解説)	02	通期	4単位	一ノ瀬 篤
[演習概要・学習目標] 不良債権、倒産、構造改革、極端な金融緩和政策 の継続、日本の貿易競争力弱化の兆し、国債の累 増、等々、我々を取り巻いている現実の経済は激 動の時代を迎えている。この演習では、深い考察で はなく、上記のような諸問題についての概略的な知 識もしくは理解のための基礎知識を身につけること を目標とする。	[演習計画] はじめは担当者が short lecture の形で、いく つかの話題について解説する。回が進んでくると、 受講生が興味を持った新聞・雑誌記事（のコピー） をクラスに持ち込んで、それについて概略を説明し たり、不明点を提示したりする形をとりたい。			
[成績評価の方法] 期末試験を含め、数回の小テストを行う。この結 果と日頃の発表や発言を総合的に勘案して最終評価 とする。	[参考文献] 日本経済新聞社編『Q&A 日本経済100の常識』 （日本経済新聞社、2000年） *この参考書は how to もの的な外観になってい るが、経済学部生としては必携である。			
[教科書] なし				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	03	通期	4 単位	矢根 真二
<p>〔演習概要・学習目標〕</p> <p>テーマは「コミュニケーションから始める経済の見方・経済学の使い方」です。人生を愉快に過ごすには上手なコミュニケーション力が必要です。自分の考えをうまく相手に伝え、相手の考えを正確に理解できれば、家庭でも学校でも、遊びでも仕事でも、もっと楽しく快適にエンジョイできるからです。</p> <p>ところが話す練習なんてしたことのない人が大半ですから、いざ人前で話すことになるのと苦になるのも当然です。でもこのままでは、今後の人生を左右する重要な面接・交渉・会議などをこなすのは難しいでしょう。もともと対話は相互の理解と知識を高める効率的な手段ですから、経済学の初心者同士、普段の友人との会話のように、コミュニケーションの練習を兼ねつつ、経済の見方と経済学の使い方について相互に学び合おうというわけです。</p> <p>ですから第1の学習目標は、相互のコミュニケーションによって個々の学習効率をアップすることです。具体的な学習材料における目標は、日々の経済ニュースへの関心を高めて理解を深めること、経済はもちろん教育・社会・政治・法律といった身近な分野での経済学の使い方を学習することの2点です。</p> <p>演習では講義とは違って、メンバーの個性と積極性がポイントになります。失敗を恐れて無難に話すのではなく、他人とは違う自分なりの考え方を相互に交換するからこそ、楽しく有益な時間になるからです。各種プログラムの運用を含めて、何事にも創意工夫でトライする企業家精神を期待しています。</p>	<p>〔演習計画〕 (以下のようなプログラムから取捨選択して実施します)</p> <p>①入門情報リテラシー: 「読み・書き・IT」は効率的なコミュニケーションの基本です。演習でも報告の度にその報告内容を各自の HP (ホームページ) にアップしてもらおうので、最初に基本的な操作をインスタントに復習します。技術に強いのは若者の特権ですが、自分のHPなど作ったことがない人は情報処理演習などを、作文は苦手だという人は論述指導などを履修すればOKでしょう。</p> <p>②ディベートゲーム: 日頃よく耳にする話題から関心のあるトピックを選び、賛成派・反対派に分かれて討論します。いろいろな論理・価値観・考え方を学ぶと共に、相手をうまく説得する技術を高めることが目的です。</p> <p>③仮想株式ゲーム: ネット上で仮想的な株式売買を行い、資産運用力を競います。市場の動きを体感し、多くの企業を知ることを通じて、情報収集と意思決定の重要性を学び、論理的な説明力をつけることが目的です。</p> <p>④テキストの輪読: 同じ本を読んでも人によって解釈や疑問は異なります。そこで同じ本を読んで疑問点を出し合って話し合うことで、互いに読解力・理解力を高めるのが目的です。初心者でも読みやすいように、経済だけでなく教育・社会・政治・法といったより身近な題材の入門書から選択します。</p> <p>その他、新しい商品や新聞記事を要約・解説するニュースレポート、新商品やサービスを発案・企画する新商品企画、基礎的な作文の練習をする800字程度の自己主張などを用意していますが、詳細は教員HPを参照して下さい。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>各種プログラムに関する自己評価シートをベースに評価します。</p>	<p>〔参考文献〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●パソコンやネット利用の基礎については情報処理演習などを履修するか、情報センターのガイドブックを自習しましょう。 ●情報発信の基本は書くことです。文章を書くのが苦手な人は論述指導を履修するか、書店の就職コーナーの小論文・作文の手引きを自習しましょう。 ●経済の見方や経済学の使い方を理解するには、経済学基礎理論Aを履修するか、経済学の入門書を自習しましょう。 ●詳細な情報・質問には、教員HP (http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/) を利用して下さい。 			
<p>〔教科書〕</p> <p>日本経済新聞社 (2001) 『教育を問う』 日本経済新聞社 1400円 ⇒最も馴染みのある学校生活も「教育市場」という重要な経済活動の一部です。身近な上に新聞連載記事なので、初めての読解力チェックにもふさわしいでしょう。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	04	通期	4 単位	桂 昭彦
<p>〔演習概要・学習目標〕</p> <p>我々の経済社会は、今大きな変革期に直面している。それはベルリンの壁崩壊以来加速的にこれまでの市場と政府がミックスした経済システムから、市場を中心とした経済システムに移行しつつあり、将来的にもそのような方向へと進んで行くであろうと考えられるからである。我々の身の回りで規制緩和、金融ビッグバン、あるいは大きな政府から小さな政府へとといった動きは市場を中心とした経済システムへの動きの具体的な反映である。</p> <p>この基礎ゼミではこれからの経済学の勉強の前提として我々の経済社会が大きくカーブを切ろうとしていることを熟知してもらい、今後の経済学の勉強にインセンティブ、ないし方向性を与えることができると思っている。</p>	<p>〔演習計画〕</p> <p>演習概要でふれたように我々の経済社会は今後、過酷なグローバルな市場経済社会に突き進んでいかざるを得ないが、まずその点について教科書で認識を深めるのがこの1年の目標である。さらにこれから経済学を勉強していく上で現実の経済の実態を知っておくことも不可欠であるのでパソコンを利用してグラフを作成し経済社会の現状の理解を深めていこうと思う。</p>			
<p>〔成績評価の方法〕</p> <p>出席、報告、レポートなどの総合評価</p>	<p>〔参考文献〕</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>〔教科書〕</p> <p>日本経済新聞社編『新資本主義が来たー21世紀勝者の条件ー』(日本経済新聞社) 総務庁統計局監修『統計でみる日本 2002』(日本統計協会)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	05	通期	4単位	河合 勝彦
<p>[演習概要・学習目標] 本演習は、受講生諸君の大学生活をより生産的なものにするための基礎能力（「読み・書き・聞き・話す」技術）の向上を第一義の目標とする。</p> <p>具体的には、「社会科学[1]におけるコンピュータの活用」を広義の演習題目として掲げ、数週間毎に、担当教員が議論のためのトピックおよび参考資料を提供する。</p> <p>なお、演習の最終的な目標は、研究課題およびその考察方法を受動的に指示されるだけでなく、学生自身が主体的に研究課題を設定し、かつ考究していく態度を身につけていくことである。</p> <p>補注： [1] 社会現象を実証的方法によって分析し、その客観的法則を明らかにしようとする学問の総称。研究対象により、経済学・政治学・法学・社会学・歴史学などに分かれる。三省堂『大辞林』</p>	<p>[演習計画] いくつかの論題を選び、基礎能力の研磨に努める。</p> <p>●議論のためのトピックの例（受講生の興味や適性に応じて選択する）： - 手書き、エディター、ワープロの使い分け - 情報の保存と共有の方法 - コンピュータソフトと著作権 - マルチメディアの功罪 - ネットワークと情報公開 - ネットワークと市場の進化・適応 - コンピュータと経済予測</p> <p>●基礎能力向上のために必須の技術： - 情報検索の方法（図書館およびインターネットの利用法） - リポート作成（アカデミックライティング）の基礎的作法 - 口頭発表の作法（マルチメディアの活用を含む） - グループディスカッションの方法</p>			
<p>[成績評価の方法] 平常の努力を評価する。随時、小レポートおよび口頭発表を課す。積極的な態度での演習への参加を期待する。</p>	<p>[参考文献] 担当教員のホームページ上に、演習進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書] 必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	06	通期	4単位	木村 二郎
<p>[演習概要・学習目標] この演習 I では、第1に、テキストを輪読しながら、日本経済がかかえる現実の具体的な諸問題の輪郭を学習する。交替にレジメ作成・報告を行い、それに基づいて全体で討論して認識を深める。この輪読を通じて、大学で経済学を学んでいく基本的方法を身につけ、経済を研究することの面白さを理解することを目標にする。第2に、カレントなテーマを選択して、ディベート(討論)を班対抗で行う。このディベートでは、相手の意見に対抗して自分の見解を述べる訓練を通じて、討論する能力を養うと共に、さまざまな問題に対する認識を深めることを目標にする。</p> <p>一年間を通じて、大学で経済学を学ぶ上で不可欠な能力(読み・書き・話す)を身につけ、日本経済の大枠を理解することにより、有意義な大学生活の出発点にしてもらいたい。</p>	<p>[演習計画] テキスト各章(景気・経済成長・財政・金融改革・経済摩擦・産業構造・地球環境など)の輪読と班対抗ディベートを前後期を通じて行う。随時、小レポート作成を通じて、書く能力の養成に努める。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席は前提。演習に対する取り組みの積極性とレポートやテストなどを総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書] 日本経済新聞社編『ゼミナール日本経済入門』(2002年版)日本経済新聞社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	07	通 期	4 単位	熊谷 次郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>目標は、現代の経済について学びながら、勉学の基礎となる知的訓練、知的好奇心を喚起することにある。具体的には、次のことを目指す。</p> <p>(1) 経済と経済学の基礎的知識を身につけること。これは、経済と経済学の世界で通用する基礎文法を身につけること、と言い換えてもよい。</p> <p>(2) 教科書を読んで（ここでは教科書だが、一般的に言えば、与えられたドキュメント・文書類、といてよい）、その内容を文章で簡潔にまとめ、あるいは口頭で発表する力をつけること。</p> <p>(3) 経済学の分野は広く深いので、そのなかで自分は何を専門とするかについての方向性を得ること。</p> <p>以上の目的を達成するための一つの手掛かりとして、戦後日本の経済を概説した下記の教科書を中心に勉強していく。用語説明などを通じておのずから経済学の基礎知識も得られるであろう。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>まず教科書の内容を正確に捉えることから始める。そのため、教科書の輪読をしたり、教科書に則した報告を順番にってもらうことになる。その上で、みんなで質疑や討議を行って、理解を深めるとともに、自ら考え、それを表現する力を養っていきたいと考えている。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、報告、レポートなどの総合評価。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>日本経済新聞社編『ゼミナール 日本経済入門』第17版、日本経済新聞社、2002年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	08	通 期	4 単位	巖 善 平
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済学とはどういう学問か。経済学部志望の学生に聞くと、「モノやカネの動きを説明するもの」との答えが多かった。もちろん、経済学の内容は非常に豊富で、その扱う領域も遥かに幅広い。</p> <p>この基礎演習の目的は、新聞やテレビでよく取り上げられる様々な経済問題を理解するための最小必要限の基礎知識を習得することである。また、必要に応じて、時事経済問題について新聞などを予め調べて貰い、グループ別の討論会・弁論会を学生の司会で行う予定である。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>①最初の数週間、ワープロによるレジュメの作成、図書館の利用方法、図書資料やネット情報の検索・収集の方法などについて説明する。</p> <p>②日経新聞の経済記事などを読むための経済学、統計学の基礎知識について解説する。具体的に、経済成長率や失業率、物価上昇率のような専門用語の内容と計算方法を教える。</p> <p>③各自が自分の問題関心に沿って、新聞などで資料を収集し論点を整理して演習で発表する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>必修であるため、出席状況にも配点する。 具体的には、出席3割+発表の準備3割+テスト4割とする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>随時、指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>必要に応じてコピーして配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	09	通 期	4 単位	佐賀 朝
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この演習では、大学で学習・研究を行っていくための基本的な能力を身につけるため、現代の社会問題、とりわけ我々の身の回りの地域社会が抱える諸問題を取り上げて、共同で学習、調査し、発表や討論を通じて理解を深めていく。その際、以下のような能力の獲得が重要である。</p> <p>まず①論述的な文章を読み、その内容を正確に理解すること、次に、②特定のテーマについて調べるために文献や資料を収集し、整理・分析すること、さらに③そのようにして調べ、分析した結果やそれに対する自分の意見を、文章や発表の形で表現すること、その上で④他人との間で討論し、批判しあうことを通じて意見の相違や共通点を確認し、問題についての理解を深めること、である。</p> <p>書くことや議論すること、あるいは自分で読み、調べ、自分の頭で考え、整理することなどを通じて、自分の疑問や意見を掘り起こし、深めていくことは、他人とは異なる自分を発見・創造し、豊かにしていくためにひじょうに大事な作業である。</p> <p>1年間の演習を通じて、受講生それぞれが社会問題への関心を深め、自分が取り組むべき何らかの課題を発見することができれば、と考える。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>(前期) ある問題についての新聞記事や論説・論文などを読み、担当を決めてその要約や論点整理を行い、関連する資料を調べるなどしながら、疑問・批判なども提示する形で発表し、それを素材に全員で討論を行う。</p> <p>場合によっては、各自の意見を文章化し、その文面・内容を相互に検討したり、討論の内容をまとめるなどの課題を追加する。</p> <p>以上の行程を一つの基本サイクルとして作業を進め、まず他人の文章を正確に理解し要約すること、感想や疑問を持ち、それを意見や批判にまで高めること、討論をしながら自分の考えを深めること、論述的文章を書く能力を身につけること、などをめざす。</p> <p>(後期) 基本的なサイクルは前期と同じ形で進め、扱う文章の分量や内容をレベルアップするとともに、議論を積み重ねていくことを通じて、より内容の豊富な討論や文章作成をめざす。</p> <p>*なお、取り上げるテーマとしては、環境問題、教育問題、福祉問題から、地方自治体や都市の問題、大学改革の問題、テロと戦争の問題などなど、様々なものが考えられるが、受講生の関心も汲み上げながら設定していきたい。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席・受講態度、報告、討論、レポートなどを総合的に評価。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の中で随時、提示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に定めず、随時、プリントなどを配付する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	10	通 期	4 単位	鈴木 健
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>わたしたちは、身の回りで生起する大量の政治・経済・社会・イデオロギー現象について、好むと好まざるとにかかわらず、判断を求められる。けれども、日々生起する政治・経済・社会・イデオロギー現象について、それを根本的にとらえることは必ずしも簡単なことではない。</p> <p>この基礎演習は、経済学を初めて学ぶ一回生が、日本と世界で生起する政治・経済現象に深い関心をもち、諸現象のつながりとその「真相」を追い求めようとする探求心を身につけるために必要な訓練を行う場である。現代の日本と世界の政治・経済生活を考えるうえで参考となる事象、あるいは日々生起する事象の中で世界の注目を集める事象や演習参加者がもっとも関心をもつ事象をとりあげ、それを素材として報告し、報告にもとづいて討論し、報告者の見解と他の演習参加者の見解の相違を明らかにしつつ、事柄の「真相」に迫る思考の訓練を行う。</p> <p>本演習はまた、大学生活を開始する一回生が、大学生活に習熟することを手助けすることをもう一つの課題としている。</p>	<p>[演習計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回、演習の進め方と年間計画の解説 ・第2回、演習における報告の仕方① ・第3回、演習における報告の仕方② ・第4回 ～ 演習参加者による報告と討論・その他 ・第27回 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>次の三つの評価の総合によって決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一、出席日数。2/3以上の出席が義務。 ・第二、報告のさいの準備の中身、報告の内容、討論への参加の仕方。 ・第三、他の報告者の報告を素材とする討論への参加の仕方。 	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その都度指示する。 			
<p>[教科書]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事、その他を使用。 				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
演習 I	1 1	通 期	4 単 位	竹 歳 一 紀
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済と経済学の基本を学ぶ。またそのために必要な基本技術を習得する。 おおむね、以下のような内容を考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日本経済の現状を通じて経済と経済学の基本を学ぶ 2) 人の一生を通じて経済と経済学の基本を学ぶ 3) パソコンの初歩 4) インターネット利用心得 5) パソコンを使った経済データの処理 6) 資料の探し方 	<p>[演習計画]</p> <p>左記の1)、2)については、簡単なテキストを読んで順番に報告してもらい、解説を加える。1)を前期に、2)を後期に行う予定である。ただし前期は、3)～6)についても学習する。 各学期末に試験を実施する。課題・レポートの提出も適宜課す予定である。その他詳細は初回に指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、課題・レポートの提出、試験の成績によって評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>講義開始時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 2	通期	4 単 位	竹 原 憲 雄
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>いま日本の対外援助が注目されている。 日本経済のグローバル化が進み、発展途上国の貧困問題、地球規模の環境問題がいわれるなかで、日本の政府が発展途上国に与えた2000年度のODA(政府開発援助)は1兆8863億円。これはアメリカをはるかに凌いでダントツの世界第1位。そこには私たちが毎日払う消費税が含まれ、郵便貯金があてられている。それが海をわたってタイやバングラデシュなどで大規模に使われている。日本はいよいよ「援助大国」としての地位を高めてきている。 20世紀が「東西」問題の時代であったことからすると、21世紀は「南北」問題の時代である。そして最近のアフガン難民問題などからすると、日本の対外援助はいっそうクローズアップさねることになるであろう。 演習では、こうした21世紀の主要課題や緊急課題にむけて、わが国の対外援助のしくみと実態を検討することにする。 毎回報告者のレジュメをもとに進める。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>テキストを中心に内容の分担報告と討論。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、分担部分の報告および提出レポートによって総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>演習の中で紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学 [新版]』有斐閣、1997年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 3	通 期	4 単位	津 田 和 夫
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>テーマ：「現代日本の金融と財政投融资」</p> <p>日本経済の現況を見つめながら、まず経済の基本や歴史を学ぶ。そして、その過程で日常生活において遭遇する様々な経済問題について、疑問点や対立する論点を解きほぐし、理解を深める訓練をする。特に我が国の金融制度の歴史と、金融改革、構造改革、財政問題などは重点的に扱う。</p> <p>夏休みに自分の関心あるテーマを絞り、短い報告を書いてもらい、それに従って教室で報告してもらう。自分の意見の提示と活発な討論は高く評価する。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>「前期」 教科書を読む。新聞記事などにより時事問題も研究する。</p> <p>「後期」 各自のテーマの発表、討論を行う。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席状況、討論参加状況、中間試験および期末試験</p>	<p>[参考文献]</p> <p>改訂「現代銀行論入門」（経済法令研究会）津田和夫著 2001年第2刷 「日本の金融制度と銀行経営」桃山学院大学総合研究所紀要、24巻3号 1999年3月</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「日本経済100の常識」2001年9月25日版 日本経済新聞社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	1 4	通 期	4 単位	義 永 忠 一
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>地域社会において、企業、特に中小企業が果たす役割について考えるきっかけになることが、演習 I の目標です。企業とは？から出発し、白書をはじめとする地域に関する具体的資料についてディスカッションすることで、地域社会における中小企業の役割及び問題点について考えていきます。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>春期 各グループで教科書の分担箇所を報告してもらいます。報告後ディスカッションを行います。また報告には、コンピュータソフトを用います。そのためソフトの使用方法についての実習も演習に含まれます。</p> <p>秋期 各グループにより、白書などの具体的資料をもとに問題提起し、ディスカッションを行います。そして、一定の解決策を、グループごとでまとめる作業を行いたいと考えています。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>報告及びその後のディスカッション・レポートの提出を中心に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>中小企業庁編『中小企業白書 2001 年版』2001 年。 その他の参考資料は、その都度コピーしてお渡します。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>上田達三『現代日本の企業〔入門〕』関西大学出版部、1997 年。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	15	通 期	4 単位	藤間 真
<p>[演習概要・学習目標] テーマは「世界市民として学び生きる」です。 桃山学院大学の建学の精神は「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界市民の育成」です。 そして、「キリスト教精神に基づく人格の陶冶と世界市民の育成」という前提の元での4年の学生生活の基礎を築こうとするのがこの演習です。 言うまでもないことですが、入試をクリアして入学した諸君ですから、大学入試合格レベルには達しているわけです。その諸君に更に高いレベルでの「読み書きソロバン」の訓練を行なうことを通じて「世界市民として学び生きる」ことを追及します。</p>	<p>[演習計画] 第一回に演習の進め方の詳細について発表します。 第二回目以降何回かを使ってチャペル、図書館、情報センター等、大学が学生に提供しているサービスを説明します。 同時に、配布する資料をまとめて発表しそれについて議論するという形で、大学生としての文章能力についての訓練を行ないます。 進行状況を勘案するので時期は確定できませんが、学年末レポートをまとめるという作業を通じて更に大学生としての学び方の実習を行なう予定です。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席、報告、討論、レポートなどで総合評価します。 きちんと準備した上で出席し、討論に参加しないと低い評価となります。</p>	<p>[参考文献] 随時指示します。</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	16	通 期	4 単位	中村勝之
<p>[演習概要・学習目標] これまで経験してきた学校教育と大学教育の一番の相違点を挙げるとしたら、授業を通じて「コミュニケーション能力」を身に付けることである。それが「演習」というものの基本的性質である。この演習を成立させるためには、「知識」「調査」「発表」「討論」というものが必須条件となる。そこでこの演習では、コミュニケーションを図る上で必要となるこれら4つの条項のうち、「調査」「発表」「討論」の3つを身につけるための練習の場としたい。 しかしこうしたことをしようと思えば、「何でも O.K.!!」ではだめで(というより難しすぎる)、あるテーマに沿って行ったほうが効率的である。そこで本演習では大学の「出口」、すなわち4年後に迎えるであろう「就職先」をテーマにしたい。 このテーマ設定について、理由を示しておこう。近年企業における「新卒採用」が減少傾向にある。これは企業が人材教育をある意味放棄して、既に「知識(もしくは資格)」を持っている人、すなわち即戦力を要求していることが挙げられよう。しかし学生側においても、「調査(もしくは情報)」の不足、面接試験における「発表」および「討論」の不足、すなわち就職する際に要求される総合的な準備が不足しているからである。一般的には就職(あるいは将来)へ向けた準備は3回生の後半で行われるのであるが、こうしたことを考慮すれば、3回生で動き出すのは準備不足の感否めない。だから、4回生になって慌てる事態を招くのである。そういうわけで、本演習では将来のことをしっかりと意識してもらいたい。</p>	<p>[演習計画] I. 準備作業 1. 進路希望調査 2. 「調査」の方法 ~図書館ガイダンス~ 3. 「発表」「討論」の方法 II. 学生による「調査」「発表」「討論」 1. 担当者分担 2. 学生による運営 III. 演習成果の蓄積 ~レポート作成~</p>			
<p>[成績評価の方法] ①基本は皆勤、無断欠席は言語道断 ②出席していることを前提にして、学習目標の3つを総合的に評価</p>	<p>[参考文献] 適宜指示していく。</p>			
<p>[教科書] 使用しない。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	17	通期	4 単位	野田知彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>この基礎演習の目的は、経済学の基本的な考え方を身につけることである。具体的な題材としては、進学、就職、賃金、雇用、昇進、結婚などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学などの生活に関わる身近な問題をとりあげる。これらの問題を経済学的に分析すればどのようなことがわかるのか、ということを経済学の基礎的な考え方から説き起こしていく。また、後期には、学生諸君自身の問題意識にもとづいてレポートを作成してもらうことにする。</p>	<p>[演習計画]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>報告、レポート</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「ライフサイクルの経済学」 橋本俊詔 筑摩新書</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	18	通期	4 単位	前田治郎
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>大学での学習スタイルは、高校までのそれとは大きく異なっており、とまどう人も多い。たとえば、決まった答えのない問題（だからこそ研究に値する）を取り上げ、自分独自の見解を見つけだしたり、レジュメ（概要）を提示して自分の意見をわかりやすく説明するプレゼンテーション能力が求められたりする。この演習では、経済記事を素材にして、まず全員で要旨や論点の整理の仕方を勉強した後、参加者各人に興味のあるテーマ設定をしてもらい、その報告を積み上げた上で最後にレポート作成をしてもらう。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料収集の研修--図書館、インターネット 2. レジュメ作成の練習 3. 各人のテーマ設定 4. 教室での報告と討論（反復） 5. レポートの作成 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席などの平常評価と最後に作成するレポートを総合評価する。</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	19	通 期	4 単位	モグベル ザファル
[演習概要・学習目標] テーマ： 世界経済の中の日本 —— 世界の中の日本経済 日本はいま、世界や世界経済の中でどのような位置にあるのでしょうか。「21世紀は日本の世紀になる」と言われていたのが、気がつくとその地位はかなり後退してしまったように感じられます。これからの日本はどうか、アジアに視点をおいて考えて見ます。 この演習における学習目的は、経済学の基礎を学ぶことによって次のような目標に向かって着実に前進することです： 1. 大学を4年で卒業するための基礎を築き、第一歩を踏み出すこと。 2. 卒業後の自分の可能性をイメージし、その実現に向かって動き出すこと。 3. 目を世界に向けること。 4. 経済や経済学に幅広く関心をもつこと。	[演習計画] 授業は、テキストの輪読+報告という基本パターンで進めますが、それ以外にも次のような課題に取り組むこととします。 1. 新聞の経済・国際関連記事を中心に、自分の関心に沿って選び、報告することによって新聞やニュースの内容をよりよく理解することを目指します。 2. 経済用語の基礎知識を系統的に身につけることを目指します。 3. インターネット利用および資料収集スキルの向上を目指します。			
[成績評価の方法] 成績評価は次の三点を総合して決めます。 1. 出席状況 (多数回欠席は除籍となります) 2. 報告の内容 3. 討論への参加	[参考文献] 随時指定します。			
[教科書] 湯浅 博 「アジアが日本を見捨てる日」 (PHP研究所)				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	20	通 期	4 単位	望 月 和 彦
[演習概要・学習目標] テーマ：「世の中は左様ならば御尤もさうでござるかしかと存ぜぬ」をぶっ飛ばす！ そもそも学校というところは、生き方の定まらない人間たちが生き方を求めて集まってくる場所と見る事ができる。「学校なんて何の役に立つのか」と言いながら、ほとんどの若者は高校に行き、多くの人はいよいよ大学に進学する。なんのののかのといっても、とりあえず学歴だけは押さえておこうというのである。つまり生き方がわからないものだから、学歴にすがって見るのである。てなわけで大学まで来てみたものの、世の中をどう渡っていけばいいかなんて誰も教えてくれるわけではない。でも最近では、企業すら学歴ではなく、しっかりした考えを持った人間、リーダーシップが取れる人材を求めている。でもそれはフツーの勉強じゃわかんない！さてどうする？とどのつまりは、自分で自分を鍛えなければならぬのである。いや困った！ということ、皆さんにまず自分で物事を考える訓練をしてみようというのが、この基礎演習の目的である。この基礎演習では、論理的な思考の仕方を学ぶ。できるだけ具体的に、社会問題や倫理上の問題を徹底的に論理的に考えることによって、論理の構造と、その根底にある世界観や価値観を理解する。そこで自分なりのものの見方、考え方が身に付けば、このゼミは大成功ということになる。その結果、何事にも一家言をもつ「カワイクナイ」人間ができるかも知れないが…、まっ、いいか！？	[演習計画] この基礎演習は、以下のようなやり方で行う。 ◆テキストの輪読その一 テキスト：竹内靖雄 『経済倫理学のすすめ』 中公新書 このテキストを熟読玩味し、筆者の問いに答えることで、合理的思考を養う。 ◆テキストの輪読その二 テキスト：屋山太郎 『官僚亡国論』 新潮文庫 とかく現実より理論が先行しがちなこの時代に、現実を理解することは容易なことではない。そこで官僚制のもたらす問題を考えることで、現実を把握するとともに、経済学を勉強する意義を理解してもらおう。 ◆新聞を読む これは、社会科学の勉強に必要な社会に関する知識を豊かにするとともに、新聞やマスコミに対して批判的な見方を養う目的を持っている。 ◆ディベート(討論) これは、今日の日本社会がどんな問題を抱えているかを理解するとともに、自分の意見を論理的に組み立て、発表できる能力を身につけることを目的としている。			
[成績評価の方法] 出席、発表、課題提出によって評価する。	[参考文献] 文藝春秋編『日本の論点』シリーズ 文藝春秋社 鷲田小彌太『哲学がわかる事典』 日本実業出版社 鷲田小彌太『現代思想がわかる事典』 日本実業出版社 よみうりテレビ編『紳助のサルでもわかるニュース』 実業之日本社 猪瀬直樹『日本国の研究』 文藝春秋社 浅羽通明『大学で何を学ぶか』 幻冬舎			
[教科書] 竹内靖雄 『経済倫理学のすすめ』 中公新書 屋山太郎 『官僚亡国論』 新潮文庫				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	21	通 期	4 単位	望 月 和 彦
<p>テーマ：村上さんに学ぶ経済学</p> <p>村上龍は不思議な作家だ。芥川賞を受賞したからには純文学からやってきた人のはずなのに。経済問題についてやたら詳しく、やたら関心を持っている。彼の経済問題に対する勘のよさは作家ならではのものだ。さらに作家なので書いていることが分かりやすい。そこで一年生の経済学入門として村上さんの本を取りあげることにする。また教材として彼がインターネット上で発信しているJapan Mail Media (JMM) も使用する。</p> <p>同時に、社会問題全般について関心を持ってもらうために、新聞記事を要約して発表してもらうとともに、ディベート（討論）も行う。</p> <p>ゼミは、教師が学生に講義をする場ではない。逆に学生が教師に色々なことを教えてくれる「オイシイ」時間なのだ（つまり授業料を取っている方が利益を得ている——おっと！これは秘密だった）。諸君がどんな情報を提供してくれるか楽しみに待っている。</p>	<p>[演習計画] この基礎演習は、以下のようなやり方で行う。</p> <p>◆テキストの輪読 テキスト：村上龍 『おじいさんは山へ金儲けに』 NHK出版 テキストの内容を要約して発表する。このテキスト終了後は、JMMからアップツーデートの話題をテキストとして利用する。</p> <p>◆新聞を読む これは、社会科学の勉強に必要な社会に関する知識を豊かにするとともに、新聞やマスコミに対して批判的な見方を養う目的を持っている。</p> <p>◆ディベート（討論） これは、今日の日本社会がどんな問題を抱えているかを理解するとともに、自分の意見を論理的に組み立て、発表できる能力を身につけることを目的としている。 年に数回、他のゼミとの対抗ディベートも行う。</p>			
<p>[成績評価の方法] 出席、発表、課題提出によって評価する。</p>	<p>[参考文献] 文藝春秋編『日本の論点』シリーズ 文藝春秋社 鷲田小彌太『哲学がわかる事典』 日本実業出版社 鷲田小彌太『現代思想がわかる事典』 日本実業出版社 よみうりテレビ編『紳助のサルでもわかるニュース』 実業之日本社 猪瀬直樹『日本国の研究』 文藝春秋社 浅羽通明『大学で何を学ぶか』 幻冬舎</p>			
<p>[教科書] 村上龍 『おじいさんは山へ金儲けに』 NHK出版</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
演習 I	2 2 2 3 2 4	通 期 通 期 通 期	4 単位 4 単位 4 単位	藤 田 香
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>この演習 I では、経済学の基本的な骨組みについて学習します。新聞は連日、「構造改革と景気」、「不良債権問題」などの問題を報じ、経済危機への処方箋を提示しています。しかし、経済に関する言葉の意味や仕組みを理解するのは、かなりしんどいです。</p> <p>この演習 I の目標は、経済の複雑な問題について、その本質を自分の力で考える力を身につけることです。経済学は一つの体系をなしている学問であり、基本的な骨組みは以外にシンプルです。経済学の知識を身につければ、経済の複雑な問題の輪郭がくっきりと見えてきます。理解できれば、興味も湧き、問題の本質を自分の力で考えることもできるでしょう。</p> <p>なお、このクラスは、春学期途中(5月中旬)から春学期終了まで担当者(藤田)が出席休暇に入るため、この期間については他の経済学部専任教員による代講となることを承知願いたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>この演習 I では、講義形式をとらず、受講生の発表を中心に行います。具体的には、テキストを輪読し、①個人報告、②共同報告に基づいた討論により、読み、話す能力を身につけ、③レポート作成を通じて書く能力の養成に努めます。また、定期的に、テストも実施します。同時に、レジュメ、レポートの作成方法やプレゼンテーション・テクニックについても、学習します。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席することは前提です。社会常識やマナーを守って行動しない場合（私語、睡眠、携帯（メール）、飲食、遅刻、途中退室、内職、無断欠席等）は、除籍します。その上で、演習に対する取り組みの積極性（ただじっと座っているだけでは、評価しません）、報告、討論、レポート、テストについて総合的に評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中、適宜紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>日本経済新聞社（編）『やさしい経済学』 （日経ビジネス人文庫667、2001年、日本経済新聞社、700円）</p> <p>→最初の授業で、報告の順番を割り当てますので、受講生は必ず持参すること。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 A	0 1	春学期集中	4 単位	中 村 勝 之
<p>[講義概要・学習目標] 大抵の学生に「経済学部に来た理由は?」と聞くと、①株で一儲けしたい、②就職に有利、と返事が返ってくる。②はともかくとして、①は経済学関連の講義を受講したら、すぐ役立つことができると思っている節がある。しかし経済学自身は、そのような「生半可な」学問ではないことを主張するのが、この講義の目的である。 経済学の基本とは、われわれが身近に体験している諸活動(生産、消費、貯蓄、勤労など)を通じて、国(世界、あるいは地域)全体としてどのように振舞うのかを探求する基礎を与えるものである。こうした議論自身は、経済学本来の「経済」活動に限定されず、周辺領域にまで拡張されてきている。そういう意味においては、「株で一儲け」という返事は、経済学のほんの一部を触れているに過ぎないのである。 そこでこの講義は科目名が示す通り、「学問」としての経済学の基礎を解説していくことにする。ちなみにここでは、基礎部分のうち「近代経済学」に属する部分に絞って解説していくことにする。しかしながら近代経済学自身がきわめて広範囲にわたっているため、その詳細な論理構造は「経済原論 I A-1」や「経済原論 I A-2」に譲り、講義計画にあるような「政府」を軸にした、世間でも馴染み深い議論に注目していきたい。 ただし近代経済学の分析手法には、みんなの「超」苦手とする「数学」が多用されている。しかしここでは数式による説明は極力控え、図形やデータなどを多用した内容にしていきたい。</p> <p>[成績評価の方法] ①出席は基本的にとらない ②授業中に5～10回程度小テストを実施する ③期末試験と小テストを総合して、評価を行う</p> <p>[教科書] 使用しない。適宜資料を配布する。</p>	<p>[講義計画] 序論.経済活動と政府のかかわり I.景気対策 ～マクロ経済学アプローチ～ 1.GDP(国内総生産)の定義とその周辺 2.財政政策の有効性 ～乗数理論～ 3.財政・金融政策の限界 ～IS-LM分析～ II.規制緩和と環境対策 ～ミクロ経済学アプローチ～ 1.「市場」の基本構造 2.「独占」と規制緩和 3.環境問題とその対策</p> <p>[参考文献] 適宜指示していく。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 A	0 2	春学期集中	4 単位	矢 根 真 二
<p>[講義概要・学習目標] 経済活動はきわめて身近な現象です。自動販売機でウーロン茶を買うのも経済学の分析対象です。ウーロン茶の満足感が投入したコインの費用を上回る人だけが購入すると考えるのです。すると、バイトに精を出すのもデートに出かけるのも、いずれもウーロン茶の問題と同じように考えることができます。 このように簡単なモデル(模型となる見方)によって、本当は複雑で多様な現実をできるだけ簡単に理解しようというのが経済学の特徴です。ナマケ者にはピッタリですが、実はこれこそ科学に共通する基本的な方法なのです。 ですから「科学としての経済学」の基礎を学習する基礎理論Aの目標は、現代の複雑で多様な経済現象を簡単に捉えられる基本モデルを修得することです。基本モデルは万国共通ですから、テキストには世界有数のエコノミストによるやさしい入門書を用います。この入門レベルのモデルを修得するだけでも、株式先物やデリバティブといった経済関連の話はもとより、ドラッグ密売・売春から環境汚染・少子化問題に至るような話に関わるエコノミストの常識を理解できるようになります。モデル思考は非常に便利で経済的だからです! ただ、科学としてのモデル思考に慣れるには、たんに丸暗記するだけではダメで、現実を抽象化して論理的に考える習慣が必要です。実際、基本モデルの多くは簡単なグラフや中学程度の数式で表現されますから、未だに文系に数学は不要と考えているようでは時代遅れです。企画や経理はもとより人事や営業でも、プロになるにはシミュレーションや数字に強くなる必要があるからです。もっとも忘れてしまったものは仕方ありませんから、講義では中学程度の知識も必要に応じて解説しますから、意欲さえあればOKでしょう。</p> <p>[成績評価の方法] ●試験の総合点が6割以上なら必ず合格とする予定。</p> <p>[教科書] ●マンキュー(2000)『経済学 I ミクロ篇』東洋経済新報社 ⇒世界中で使われ、講義で学習する主要概念もやさしく説明されている経済学の入門書で、その基礎の中でも基礎になるミクロの超初心者向け入門書です。</p>	<p>[講義計画] テーマ: モデルで学ぶ入門経済学 大きな書店に行けば分かるように、科学としての現代経済学はミクロ経済学(経済原論IA-1)とマクロ経済学(経済原論IA-2)に分かれ、公務員やEREなどの各種試験の主要科目にもなっています。そこで基礎理論Aでは、両者の基礎になる現代経済学の(テキストの10大原理に相当する)常識をまず学習します。 現代経済学は、大雑把にその基本的な考え方と構成を要約すると、 ①複雑で多様な経済現象を理解するのに簡単なモデルを作って考える ②「企業⇒産業⇒日本⇒世界」といった多様な問題を理解するのにも、各段階で作ったモデルを組み合わせた複合モデルを使って考える ので、様々なモデルをまるでブロックのように積み重ねて作られています。 そこで基礎理論Aでは、基本的なブロックとして今後何度も多用される個人と社会の見方、つまり主体と市場の基本モデル、もっと簡単に言い直すと、 ①あなたや私、つまり消費者や生産者といったすべての個人の行動の見方 ②こうした個人の行動を総計したらどうなるかという市場の見方の解説に重点を置きます。まさに世の中を捉える基本的な視点だからです。 最も基本的な2つのモデル以外にも、今日では構造改革が叫ばれるなど政府の見方が重要でしょうし、悲惨な報復テロや毎日の広告戦争のような相手とのかけひきを伴うライバルの見方も大切でしょう。実際に経済学は、まるでファッションショーやモーターショーのように、新しい問題を理解するための新しいモデル・パーツを毎年のように開発・発表し続けています。 時間をかけてモデル思考と基本モデルを重点的に解説する一方、時間の許す範囲で新しいファッションになりつつある基本モデルも解説する予定です。</p> <p>[参考文献] ●数学を苦手としている人は多いでしょうが、必ず経済学のための数学入門などを履修するか、ドウリング(『例題で学ぶ:入門・経済数学 上』シーエビー 第1・2章)などで関数やグラフの基礎を復習しておきましょう。 ●現代経済学の基本モデルは、現代の主要な経済・経営現象だけでなく、教育・社会・法律・政治問題を読み解く鍵としても使われています。講義内容と参考文献の詳細は教員HP(http://rio.andrew.ac.jp/~yane/lect/)を参照して下さい。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	03	秋学期集中	4単位	荒木英一
[講義概要・学習目標] いくつかのテーマをとりあげて、経済学の専門用語と基本的な考え方を学習していく。テキストにはいくぶん高度な内容も含まれるが、経済白書や日々の経済記事を理解する為には、この種の入門書をマスターしておくことが近道だろう。	[講義計画] 前期： 国民所得統計 GNPの決定 資産市場 IS/LMモデル 後期： オープン・エコノミー 失業とインフレーション 消費・貯蓄と投資 景気循環と経済成長			
[成績評価の方法] 授業中の小テストと出席点、学年末試験で総合評価する。	[参考文献] 適宜に指示する。			
[教科書] 開講時に指定します。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論A	04	秋学期集中	4単位	モグベル ザファル
[講義概要・学習目標] この講義は経済学を学ぼうとする学生のための近代経済学入門講義として、経済学の基本的考え方や分析手法を紹介するものです。 さて、ここで経済に関する身近な問題の一つ出して見よう。外国の大学の場合、在学期間に関する規定が緩やかなため、三年や三年半で卒業する学生がかなり多い。しかし、現在の日本の制度では四年で卒業するのが最短距離となる。そこで、不幸にも四年で卒業できず留年したとしよう。一年間の留年で学生が負担しなければならないコストはいくらだろうか？それは一年間の学費とその他もろもろの費用の合計であろう。しかし、コストはそれだけで済むのだろうか。経済学の根底には「機会費用」という概念がある。それによれば、「A」という活動（就学）に従事するために負担するコストには「B」という活動（就職）を断念することによって失われたもの（所得）も含まれるのである。それで留年のコストは一気に上昇する。でも、ここでいう「失われ所得」とは初任給の額を当てるべきなのか、それとも留年で定年が一年早まると考えて、定年前の最終給与を当てるべきなのか。この「ミクロ」の問題の背景には以外な広がりがあるのである。「マクロ」に目を転じて、社会全体が被るコストについて考えてみることもおもしろい。視点を少し変えて、「規制緩和」によって「在学期間最低四年」というルールを外国なみに緩和したらどうなるだろうか。日本経済全体の「豊かさ」や「効率」、「資源配分」や「人的資源の開発」にどう影響するだろうか。では、この続きは授業で。	[講義計画] I. イントロダクション (1) 近代経済学の起源と発展 (2) ミクロ経済学の課題 (3) マクロ経済学の課題 (4) 世界経済の現状 (5) 日本経済の現状 II. マーケットという世界 III. 需要と供給の織りなすシステム IV. GDPの概念と決定 V. 公共部門と市場の失敗 VI. 景気循環と経済成長 VIII. 貿易のもたらすもの			
[成績評価の方法] 小テスト、学期末試験などで総合評価する。	[参考文献] 随時指定する。			
[教科書] J. スティグリッツ（著）「入門経済学」（東洋経済新報社） 授業中に資料・プリントを頻繁に配布するので、必ず保管しておくこと。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 A	05	秋学期集中	4単位	河合 勝彦
<p>[講義概要・学習目標] 本講義は、経済学を初めて学ぶ諸君を対象として、経済学の基礎的概念を説明することを主眼とする。ただし、その基礎的概念というのは、「経済・社会制度の実務知識」というよりも、むしろ「経済学的な思考法」が中心であることに留意して欲しい。</p> <p>経済学的な思考法とは、人間および企業を、合理的な（目的にかなっている）行動をする主体として捉え、演繹的手法（一般的な原理から、特殊な事実を推理・説明すること）でもって、その行動予測をおこなうことである。そして、この行動予測の確からしさこそが、理論の有用性を証明するものと考えられる。</p> <p>なお、教員、学生がお互いに学び合う姿勢で講義に望みたい。よって、どんなに基礎的な質問でも躊躇しないで質問してほしい。積極的な受講態度を希望する。なお、講義の前にテキストを簡単に素読しておき、記号、数式や基本的な専門用語の意味をある程度理解しておくことが望ましい。</p>		<p>[講義計画] 受講生諸君が、上級クラス受講のための最低限の知識を習得することを目標として、以下のトピックから適宜選択する予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、経済学の考え方 2、家計の消費行動と貯蓄 3、企業の生産行動 4、市場の失敗と政府の役割 5、金融の仕組み 6、国民経済計算の仕組み 7、政府の財政・金融政策 8、国際経済 		
<p>[成績評価の方法] 平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>		<p>[参考文献] 担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>		
<p>[教科書] 井堀利宏 『入門経済学』 新世社 1997年</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論 B	01	春学期集中	4単位	上野 勝男
<p>[講義概要・学習目標] 日本経済が大きな不況にあえいでいるときに、諸君は経済学を学びはじめるわけです。科学技術がこれだけ発展した現代に、多種多様な商品があふれかえっているのに、なぜ倒産や破産、失業が生じ、個人の生活は荒波にもまれる小さな木の葉のように浮沈にさらされるのだろうか。不況のない、失業のない、安心して暮らせる経済はどうしたら可能か。こうした切実な問題に対する答えを求めようとして入学したことでしよう。しかし、学問には「サルでもわかる」とか、「玄關あけたら」すぐ食べられるご飯のような安直な解答はありません。もしそれがあるならば、そもそも経済に問題もなく、諸君も苦勞して大学へ行く必要もないでしょう。経済の様々な問題・矛盾を解明することは、山登りと似ています。経済の構造全体と変化の行方を一望のもとにとらえるためには、山でいえば頂上の峰をきわめなければなりません。このためには、ふもとから一步一步着実に登っていかねばなりません。ふもとからの着実なあゆみは経済学でいえば、私たちの生きる資本主義のもっとも基礎的な仕組みを、もっとも基礎的で重要な概念をしっかりと理解し、身につけることです。この講義は「ふもと」からの一步一步のためのものです。基礎的な概念についての解説を中心にしますが、どこを登っているのかわからなくなるらないために、現代経済のトピックスも随時とりあげていく予定です。</p>		<p>[講義計画] 教科書（テキスト）にそってすすめます。同時に、しばしば補足のためのプリントも配布しますので要注意です。</p>		
<p>[成績評価の方法] 山登りは、少しづつまた退屈かもしれないが、一步一步登るといふプロセスが大事で楽しいものなのです。だから、講義への出席を大事にします（そのために小テストを随時実施します）。そして、もちろん定期試験もします。</p>		<p>[参考文献]</p>		
<p>[教科書] 川上則道 著『資本論』の教室－きっちりわかる経済学の基礎－（新日本出版社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学基礎理論B	02	通 期	4単位	大 澤 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>私たちが現在暮らしている社会は「市場経済」とか「資本主義社会」と言われています。そんな中で、私たちは「商品」、「貨幣」、「資本」という言葉を暮らしの中でよく耳にし、日常的な用語として使っています。</p> <p>しかし、その言葉の意味を改めて説明してみるとと言われると結構難しいものです。まして、それらが相互にどのように関係しあい、どのように運動するのかがとなるとますます難しい問題になります。</p> <p>この講義では、このような基本的な経済学用語の意味を改めて考えながら、現在の経済社会の基本的なメカニズムと、特徴を明らかにしていきたいと考えています。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>【春学期】 1・商品－市場の意味、市場経済の特徴 2・貨幣－市場をつなぐ媒介者 貨幣の機能、通貨システム</p> <p>【秋学期】 3・資本－資本とは何か 生産過程と資本主義 資本主義社会の諸特徴</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として試験の点数によるが、いくつかの加点要素（レポート等）を設ける。詳しい内容については、講義の初回に説明する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>カール・マルクス著『資本論』（新日本出版社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>柴田信也編著『政治経済学の原理と展開』 創風社 2001</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一般経済史	01	通 期	4単位	富 澤 修 身
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>長い混迷状態にある日本経済、通貨経済危機を経ても勢いを感じさせるアジア経済、情報技術革命を手がかりに成長を続けるアメリカ経済、そしてさまざまな実験を行い社会的リーダーシップを示す西諸国という具合に、現代経済はさまざまな国・地域から構成されている。世界と日本の21世紀を考えると、来し方を振り返ることが必要となる。歴史は、現代と未来のあり方を構想する際の手がかりを与えてくれるからである。</p> <p>講義では、イギリス、アメリカ、日本の歴史を素材にして、18世紀の経済史、19世紀の経済史、20世紀の経済史について論じる。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>I はじめに</p> <p>II 産業革命</p> <p>1 イギリス産業革命</p> <p>2 後発国・地域の工業化</p> <p>III 18世紀の経済史</p> <p>1 問屋制経営</p> <p>2 協業</p> <p>3 マニユファクチュア</p> <p>IV 19世紀の経済史</p> <p>1 機械制大工業</p> <p>2 鉄道経営</p> <p>V 20世紀の経済史</p> <p>1 大企業の登場</p> <p>2 1930年代ニューディール</p> <p>3 現代日本経済とリストラ</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>なし</p>			
<p>[教科書]</p> <p>富澤修身著『アメリカ南部の工業化』（創風社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
一般経済史	02	春学期集中	4単位	前田 治郎
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>人類史において、人間はその自然変革能力を高めてきた。とりわけ資本主義の成立以後、この発展は加速度を増し、今日の高い生産力にまで到達した。しかし他方、依然として地球上には飢餓人口が存在し、環境問題は猶予ならないほどに深刻化し、また人殺しのための兵器が科学技術の最先端を代表しているといった現実も忘れるべきではない。この講義の前半では、資本主義を相対化するために、資本主義も含む通史的な経済史の発展傾向を考え、後半では、資本主義そのものの発展を理解するのに必要な基礎的諸概念を取り上げることにする。それらを通じて考えたいことは、「資本主義とは何か?」ということである。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>1. 前半には、経済史の発展を以下の3つの側面から取り上げる。すなわち、(a)生産力の発展とは何か、(b)経済システムの展開、(c)国家とグローバリゼーション。</p> <p>2. 後半には、資本主義発展を理解するための基礎的諸概念を取り上げる。具体的には、産業革命、先進国と後進国、経済恐慌、独占資本主義、国際通貨体制、社会主義、福祉国家、グローバリゼーションなどである。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>春期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学のための数学入門		春学期集中	4単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>小中高と学んでくうちに数学が嫌いになった人は多いでしょう。無味乾燥で現実と無関係だという印象を持っている人も多いと思います。しかし、小中高で学ぶ数学は数学という学問の一部です。そして、指導要領に縛られ受験の圧力にさらされているため決して健全な形でもわかりやすい形でもありません。</p> <p>逆に言うと、入試で必要となるテクニックなどを除外し広い視野で見ることと、受験準備ではない問題演習を繰り返すことで今まで苦手に思ってきた諸君にも数学に親しむことが提供できるはずです。この講義の目的はそのような、高いレベルから小中高の数学を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。</p> <p>自己充足的な講義を目指すので、小中高の数学の知識を予備知識として要求することはしません。ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。また、受験テクニックは扱いませんから高校までで数学が好きだった人にも別の視点を提供できます。ただし、きちんと出席し課題に取り組むことが必要となります。</p>	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数と量についての基礎概念 ・数を図形で表すことについて ・関数についての基礎概念 ・比例する関係と1次関数 ・2次関数 ・周期性と三角関数 ・成長法則と指数関数 ・微分法 ・積分法 <p>進行状況に応じ、ベクトルと行列、統計的手法等を扱うこともあり得る。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績を中心に、平常成績を考慮して評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>大道を行く高校数学 代数・幾何編、橋謙他著、現代数学社 大道を行く高校数学 解析編、安藤洋美著、現代数学社 大道を行く高校数学 統計数学編、安藤洋美著、現代数学社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>教科書は指定しません。 グラフを描く実習を交えますから講義にはグラフ用紙を必ず持参して下さい。</p>	<p>注意：これらは現在の高校数学の範囲を遙かに越える内容を含んでいます。名前にごまかされないようにして下さい。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
世界経済事情		春学期集中	4 単位	モグベル ザファル
〔講義概要・学習目標〕 講義の前半部分では、世界経済の基本的枠組みについて、グローバル市場の主要なアクター（経済主体）とルール・メーカー（国際経済機関）を中心に歴史的背景を含めて説明する。後半は、世界経済における今日のトピックスについて分かりやすく解説する。全体を通じての目的としては、受講生が新聞の国際経済記事を興味をもって読み、自分なりの解釈とオピニオンをもてるようになれば幸いである。 今日の世界経済では「対岸の火事」と悠長（ゆうちょう）なことは言っていない。すべてが同時進行で展開し、ポーグレスに迫って来る。「GLOBAL」と「LOCAL」の垣根がぼやけて行くなかで世界経済事情に関するよりの確かな情報と理解が問われていることは言うまでもない。このような見地に立ってこの講義では世界経済に関連したトピックスを取り上げて日本国内の問題に関連づけながら説明する。主に以下のようなテーマの中からタイムリーなトピックスを抽出して講義する。ただし、「世界経済入門」以降の部分は順不同。	〔講義計画〕 <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界経済入門 <ul style="list-style-type: none"> - 先進国、中進国、途上国とその他の分類の根拠と意義 - 今日の世界経済のルールとその起源 - GATT/WTO と世界貿易 - IMF と国際金融体制 - 国際収支の仕組みと日本の国際収支の最近の動向 2. 経済グローバル化の光と影 3. 地域主義は「妙薬」となり得るか？ EU, NAFTA, 4. 開発途上国の実体と戦略 5. NIEs 諸国の実体と戦略 APEC を巡って 6. アジア経済危機のその後 7. ODA は世界を貧困から救えるか？ 8. ブッシュ政権下のアメリカ経済 9. 石油と一次産品問題 			
〔成績評価の方法〕 成績評価は原則として学期末に行う試験結果による。	〔参考文献〕 授業中に資料・プリントを頻繁に配布するので、必ず保管しておくこと。			
〔教科書〕 宮崎 勇 ・ 丸茂 明則（編）「世界経済読本」（東洋経済新報社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学史(旧経済学史Ⅰ)		秋学期集中	4 単位	熊谷 次郎
〔講義概要・学習目標〕 経済学史という科目は、それぞれの時代を生きたエコノミストや経済学者が、その時代の経済世界をどう見ていたか、その時代の課題をどう解決しようとしていたか、言い換えれば経済世界に関して彼らがいかなるアイデアをもっていたかということの歴史であろう。とすれば、学史を通してさまざまなアイデアに出会うことができるし、そのアイデアのなかには現代社会を理解し、現代の問題を解決する手がかりが隠されていると言えるのではないだろうか。こうしたことが多分経済学史を学ぶことの意義あるいは効用ではないかと思う。 この講義ではこうした観点から、経済学の歴史を、市場社会の形成と経済学の誕生（15～17世紀）、重商主義（17～18世紀）、古典経済学の成立と展開（18～19世紀）、19世紀においてはイギリスに比べて後発国であったドイツ、アメリカ、日本などの経済学、近代経済学の成立と展開（19～20世紀）の順序で概説したい。ただし、共通自由科目という位置づけを考慮して、経済学の歴史を縦糸に、時代を超えた経済学のテーマを横軸とする構造をもつ講義としたい。テーマとは、営利と勤勉、啓蒙と経済学、徳と富、市場と国家と経済循環、経済発展の国内的契機と国際的契機、実物経済と貨幣経済、自由貿易と保護主義、などである。 この講義では、各時代における経済学のいわば巨人たちが市場経済をどのようなものとして描いていたか、彼らによるその経済社会の全体像は現代社会とどう関係しているのか、という点の理解を学習の目標としたいが、同時に受講者が経済学の歴史だけでなく、世界史、社会経済史、思想史への知識を広めたり深めたりできるようにしたいと考えている。	〔講義計画〕 以下の順序で講義を行う予定。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市場社会の成立と経済学の生誕 2. 重商主義 <ol style="list-style-type: none"> ①トマス・マンと貿易差額論 ②貿易商人たちの経済論 ③ジョン・ロックとウィリアム・ペティ 3. 古典経済学の成立と展開 <ol style="list-style-type: none"> ①フィジオクラシー（重農主義） ②ジェームズ・スチュアート ③デイヴィッド・ヒューム ④アダム・スミス ⑤リカードウとマルサス ⑥J. S. ミル 4. マルクスの経済学 5. 後発資本主義国の経済学 <ol style="list-style-type: none"> ①ドイツ歴史学派 ②アメリカ制度学派 ③日本の経済学 6. 近代経済学の成立と展開 <ol style="list-style-type: none"> ①限界革命の経済学者たち—メンガー、ジェヴォンズ、ワルラス ②ケンブリッジ学派 ③シュンペーター ④ケインズ 			
〔成績評価の方法〕 基本的には期末試験の成績をもってするが、受講生の学習の理解をはかるために小テストを数度行う予定。	〔参考文献〕 その都度指示。			
〔教科書〕 田中敏弘編著『経済学史』八千代出版、1999年				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	氏 名
日 本 経 済 史	0 1	春学期 集中	4 単位	梅 本 哲 世
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「バブル」の崩壊や旧「社会主義体制」崩壊と共に、いま世界経済・日本経済は大きな転換点にある。このような時期であるからこそ、過去を振り返ってそこから学び、現在を批判的に見つつ未来を展望する作業が必要不可欠になるだろう。この講義では、幕末から第2次世界大戦終了までの日本経済の発展を概観し、極東の一島国がどのような過程を経て世界経済に組み込まれ「資本主義化」を進めていったのかを、多面的に考察したい。そのさい、第1に、戦前日本の「資本主義化」が進行した国際的および国内的条件を明らかにし、そのうえで日本資本主義の特質を分析し、第2に、戦後の日本資本主義とのつながりを重視し、戦前と戦後を比較対照しつつ、戦前の日本資本主義をもう一度振り返ってみたい。</p> <p>歴史に興味と関心をもっている学生諸君の受講を歓迎する。現在を見据えて共に歴史から学びたいと思う。</p> <p>なお、この講義は春学期集中である。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済史の基本概念 2. 幕末の経済と開港 3. 明治維新 4. 殖産興業と松方財政 5. 近代産業の発達—軽工業 6. 近代産業の発達—重工業 7. 日清・日露戦争と日本経済 8. 第1次世界大戦と日本経済 9. 1920年代 10. 昭和恐慌 11. 高橋財政 12. 戦時経済 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学期末試験の成績により評価する。 講義の区切りに感想を書いてもらい、成績評価の参考にする。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>石井寛治著『日本経済史 [第2版]』(東京大学出版会) 安藤良雄編『近代日本経済史要覧』(東京大学出版会)</p>			
<p>[教科書]</p> <p>三和良一著『概説日本経済史 近現代』(東京大学出版会)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日 本 経 済 史	0 2	通 期	4 単位	山 田 雄 久
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>日本経済の成長史について、徳川・明治期における市場経済の発達という視点から多角的に検討する。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幕藩体制下の経済社会 2. 人口・物価史からみた徳川経済 3. 幕末の経済発展 4. 明治政府の財政金融政策 5. 近代産業の成立と企業発展 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>学年末試験の成績から評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>西川俊作『日本経済の成長史』東洋経済 石井寛治『日本経済史』東大出版会 新保博『近代日本経済史』創文社</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特になし。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
西洋経済史		秋学期集中	4 単位	前 田 治 郎
[講義概要・学習目標] 18世紀後半のイギリスに始まる産業革命は、人類史的観点からしても、巨大なインパクトをもった。それ以後、資本主義という経済システムが確立・発展し、その下で、人間の生産力は加速度を加えながら飛躍し今日に至る。とはいえ、この過程は常に平坦な道のみであったわけではない。すなわち、一方で、経済成長が順調に進展する時期と成長が鈍化し様々な対立が生じる時期が交替したし、また他方では、資本主義の世界的展開過程において、戦争に象徴されるような諸国民国家間の対立も伴わざるを得なかった。本講義では、イギリス産業革命から第1次大戦までを対象時期として、イギリス、フランス、ドイツ、アメリカにおける各国資本主義の確立・展開過程を縦軸に、各国資本主義の關係の緊密化＝資本主義の世界体制の形成過程を横軸にとり、いわゆるパクス・ブリタニカの歴史的発展を考えたい。		[講義計画] 1. イギリス産業革命と各国の対応 2. イギリス資本主義の再編成 3. パクス・ブリタニカの生成と発展 4. 大不況期と独占資本主義		
[成績評価の方法] 秋期末試験と授業中に数回行う予定の小テスト		[参考文献] 藤瀬浩司 (著) 『資本主義世界の成立』 (ミネルヴァ書房)		
[教科書]				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理論		春学期集中	4 単位	河 合 勝 彦
[講義概要・学習目標] 経済学部生のための情報処理基礎を講義する。つまり、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説する。		[講義計画] 1. コンピュータとは (コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能) 2. 情報社会とコンピュータ 3. コンピュータによる情報の表現 4. コンピュータによる計算の仕組み 5. コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置 6. パーソナルコンピュータの仕組み 7. ソフトウェアの構成 8. オペレーティングシステム 9. パソコン用ソフトウェア 10. コンピュータ・ネットワーク 11. 学内の情報環境について 12. 経済学の研究・学習とコンピュータ1 (インターネット資源の活用) 13. 経済学の研究・学習とコンピュータ2 (統計処理) 14. 経済学の研究・学習とコンピュータ3 (シミュレーション) 15. プログラミング言語の種類と特徴 16. アルゴリズムと流れ図 17. プログラミングの基礎1 (データの型と構造) 18. プログラミングの基礎2 (効率的アルゴリズムの選択と設計) 19. プログラミング1 (データの整列法) 20. プログラミング2 (線形探索と二分探索法) 21. 計測と制御 22. 経済学とコンピュータ		
[成績評価の方法] 平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。		[参考文献] 担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。		
[教科書] 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
法情報学 (旧経済学特講(法情報学))		通 期	4 単位	福 永 正 三
[講義概要・学習目標] いわゆる「情報化社会」は、社会が情報技術によって支えられているという側面と、その技術の習得なしには我々は社会から疎外されざるを得ないという側面をもっている。前者、すなわち社会のソフト化はますます情報の価値をたかめる結果をもたらす、それゆえに情報の法的保護が重要な課題になる。しかし従来からのハード社会を前提にした情報法制は現今のソフト社会に必ずしも適応しているとはいえず、したがってその見直しと整備が求められている。また後者は流通する多種・多様の情報の波に翻弄されることなく、社会に主体的に参加するための技術を我々に要求する。とくにインターネット社会の出現は、自由な情報の流れを通じて個人が社会=不特定多数の人々と直接的に結びつく可能性を持っており、それゆえに情報技術の習得は同時に我々が過去に経験したことのない厳しい情報倫理の確立とその遵守が要求されるべきものと考えられる。 本講義は、前者を情報法編、後者を情報倫理編として、両者を相互連携的に学習することを目的とする。	[講義計画] 1. 情報社会の特質とその意義 2. 情報社会における情報の法的保護 1) 人格権的保護 ①-情報プライバシー ②-名誉・信用 2) 財産権的保護 ①-知的財産権法制概説 ②-著作権 ③-特許権、実用新案権、意匠権、商標権 3) 刑事法的保護 ①-情報犯罪概説 ②-ネットワーク犯罪 3. インターネット情報社会における情報倫理 1) 概説 ①-法の不在と情報倫理 ②-法の欠陥と情報倫理 2) データの収集・管理・利用と情報倫理 3) 電子メール、ホームページと情報倫理 4) ネットワーク取引と情報倫理 5) セキュリティ技術と情報倫理 6) 情報公開と情報倫理 4. 情報社会における人間像			
[成績評価の方法] 講義途中で2度、情報法編および情報倫理編の終了時に小テスト(各2.5点満点)を行い、講義終了時に総合テスト(5.0点満点)を行う。	[参考文献] 講義の進行にあわせて適当な文献を紹介するとともに、教科書を補完するための参考資料として判例等を適宜プリントにして配布する。			
[教科書] 和田英夫・原田三朗・日笠完治・鳥居壮行(共著) 『情報の法と倫理』(北樹出版,1999) 定価2,600円				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I a	0 1 0 2	春 学 期 春 学 期	2 単位 2 単位	井 田 憲 計
[演習概要・学習目標] あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA (Visual Basic for Applications) をもちいたプログラム作成演習を行う。 表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象にしたい	[演習計画] 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法			
[成績評価の方法] 何回かの課題提出と出席率。	[参考文献] 適宜指示する。			
[教科書] プリントを配布。 講義のホームページ(http://rio.andrew.ac.jp/~ida)				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済情報処理演習 Ia	03	春学期	2単位	河合 勝彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（Visual Basic for Application）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象にしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科目名	クラス	講義区分	単位数	担当者
経済情報処理演習 I a	04	春学期	2単位	野田 知彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩としてVBA（Visual Basic for Application）を用いたプログラム作成演習を行う。 表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象にしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整列プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習1a	05 06	春学期 春学期	2単位 2単位	村 松 郁 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（Visual Basic for Application）をもちいたプログラム作成演習を行う。 表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象にしたい。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 表計算ソフト基本操作のまとめ 2. マクロの自動記録機能 3. プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点 4. プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート 5. 複利計算プログラムの作成 6. データ型の設定 7. データ整理プログラム 8. データ探索プログラム 9. 計算とプログラムの効率化 10. 金融計算プログラムの作成 11. 計測と制御 12. C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義の最初に実習内容についての説明を行い、各自実習する形式で授業を進める。講義終了時に、毎回、実習結果をレポートとして提出してもらい、その内容で成績を評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>コンピュータに関する参考書は、最新のものを利用することが望ましいので、適宜、紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指定する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I b	01 02	秋 学 期 秋 学 期	2単位 2単位	井 田 憲 計
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。</p> <p>インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>何回かの課題提出と出席率。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>プリントを配布。 講義のホームページ(http://rio.andrew.ac.jp/~ida)</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習I b	03	秋学期	2単位	河合 勝彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>平常の努力を重視する。したがって、期末の定期試験以外にも小テストを随時おこない、かつ簡単なホームワークおよび小レポートを課す予定である。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>担当教員のホームページ上に、講義進行予定表、参考文献、参考URL等を随時掲載する予定なので、チェックを怠らないこと。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習 I b	04	秋学期	2単位	野田知彦
<p>[演習概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用についての演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習がテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報資源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データと整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>レポート、テスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>なし</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済情報処理演習1b	05 06	秋学期 秋学期	2単位 2単位	村松郁夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。</p>	<p>[演習計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞社・通信社の経済情報へのアクセス 2. 行政機関の経済情報へのアクセス 3. 統計資料・調査レポートへのアクセス 4. 地域と企業活動に関する経済情報源の検索 5. 経済統計データとは 6. 経済統計データの検索と入手 7. 経済統計データの整理・グラフ化 8. 記述統計手法(平均・分散・相関・回帰)入門 9. 国民経済計算データによる日本経済の分析 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義の最初に実習内容についての説明を行い、各自実習する形式で授業を進める。講義終了時に、実習結果をレポートとして提出してもらい、その内容で成績を評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>適宜、紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指定する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
統計学総論		春学期集中	4単位	野田知彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>社会・経済現象を分析し、その背後にある規則性を導き出すための有効な方法の一つに統計的な方法がある。この講義では経済学などの社会科学で必要とされる統計学の基礎を学習し、様々なデータを分析するための初歩的な統計分析方法の取得を目標とする。具体的には、記述統計と推測統計の基本的な考え方や基礎的な手法を学ぶこととする。今年度は可能な限りパソコンを使いたい。なお、統計学の理解には系統的な履修が必要となるので、授業を欠席すると講義の内容が理解できなくなり、単位の取得も困難になることは言うまでもない。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>授業中に指示する。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前、後期のテスト</p>	<p>[参考文献]</p>			
<p>[教科書]</p> <p>「統計学入門」 森棟公夫 新世社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本経済論		春学期集中	4 単位	鈴木 健
<p>[講義概要・学習目標] 戦後日本の経済システムは、政治（外交）＝軍事上の対米従属を至上命題とする統治システムのもとで、大企業＝大銀行本位の経済システムとして再建・確立された。日本の経済システムは、いわゆる政官財癒着の統治システムに支えられ、国家機構が直接・間接に大企業＝大銀行の蓄積支持機構として動員されるシステムであるが、いまそれが内外に累積する諸矛盾によって機能不全に陥っているように見える。90年代以降日本経済が直面する長期不況はその反映にほかならない。日本の経済システムの根幹をなす日本の大企業システムが行き詰まり、しかもそれが統治システムの内部腐蝕と表裏をなして表面化しつつある。そこで本講義では、戦後日本の経済システムの根幹をなす大企業システムをとりあげ、その歴史的な概観を行うとともに再編の方向を展望することにする。問題の性格上、それを支える政官財癒着システムとワンセットでとりあげ、統治システムの内部腐蝕と大企業システムの行き詰まりといった問題についても考えてみたい。</p> <p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 週 4 月 9 日 年間講義計画の概要 4 月 12 日 敗戦と占領 第 2 週 4 月 16 日 占領政策の展開① 4 月 19 日 占領政策の展開② 	<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 3 週 4 月 23 日 占領下経済改革と財閥解体① 4 月 26 日 占領下経済改革と財閥解体② 第 4 週 4 月 30 日 対米従属的政官財癒着システムの確立 第 5 週 5 月 7 日 財閥から企業集団へ① 5 月 10 日 財閥から企業集団へ② 第 6 週 5 月 14 日 間接金融機構の確立とメインバンクシステム① 5 月 17 日 間接金融機構の確立とメインバンクシステム② 第 7 週 5 月 21 日 戦後企業の支配構造と株式相互持ち合い① 5 月 24 日 戦後企業の支配構造と株式相互持ち合い② 第 8 週 5 月 28 日 高度成長下の大企業体制① 5 月 31 日 高度成長下の大企業体制② 第 9 週 6 月 4 日 高度成長の破綻と大企業体制① 6 月 7 日 高度成長の破綻と大企業体制② 第 10 週 6 月 11 日 バブル膨張下の大企業体制① 6 月 14 日 バブル膨張下の大企業体制② 第 11 週 6 月 18 日 バブルの崩壊と大企業体制① 6 月 21 日 バブルの崩壊と大企業体制② 第 12 週 6 月 25 日 金融システム危機① 6 月 28 日 金融システム危機② 第 13 週 7 月 2 日 グローバル競争と大企業体制の再編① 7 月 5 日 グローバル競争と大企業体制の再編② 			
<p>[成績評価の方法] 毎週、その週の講義の総括としてテストを行い、テストの総点で可否を判定する。</p> <p>[教科書] 鈴木健『メインバンクと企業集団』（ミネルヴァ書房、1998年）</p>	<p>[参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> 井村喜代子『日本経済論』（有斐閣） 橘川武郎『日本の企業集団』（有斐閣） 鈴木健『日本の企業集団』（大月書店、1993年） 中村孝俊『現代日本資本主義』（新日本出版社） 橋本寿郎編『日本経済の発展と企業集団』（東大出版会） 大槻久志『金融恐慌とビッグバン』（新日本出版社、1998年） 工藤晃『現代帝国主義研究』（新日本出版社、1998年） 			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会思想史 (旧社会思想史概説)		春学期集中	4 単位	坂 昌 樹
<p>[講義概要・学習目標] 社会的存在である人間は、少しでも住みよい社会を実現するためにさまざまな考えを提案してきました。なかでもヨーロッパ近代には、既存の体制を転覆する革命的思想から逆にそれを正当化する保守的思想まで、歴史的状況に応じて暗説が論じられています。これらの暗説は、現代のわれわれの社会のあり方をも規定している点で重要です。この講義ではそれらの思想の代表的なものを、それぞれの社会状況との関連でかみ見ようと思います。 学習の重点は、われわれの社会制度のもとにある西欧思想、ならびに日本人の考え方との違いを確認することにあります。思想といえば抽象的で難解な内容になりがちですが、なるべくわかりやすく、ゆっくり進めていきたいと思っています。理解を深めるために、コロキウム（質疑応答）をおこなうこともあります。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> Ⅰ. 導入：社会思想とはなにか Ⅱ. ヨーロッパ思想の根元：形而上学、キリスト教的世界観 Ⅲ. 個人主義の確立：キリスト教による個人の析出、マキアヴェッリ、ルター Ⅳ. 近代国家の構想：ホッブズ、ロック、ルソー、(カント) Ⅴ. 市民社会の秩序：スミス、(J.S. ミル) Ⅵ. (近代市民社会批判：マルクス、女性解放思想) <p>講義の進捗状況によっては、上記（ ）つきの思想家や思想を省略することがあります。</p>			
<p>[成績評価の方法] 学期末試験を中心に、授業中におこなう質疑応答もふくめて、総合的に評価します。</p> <p>[教科書] 指定しません。重要なテキストは、担当教員がプリントとして配布します。</p>	<p>[参考文献] 必要があれば、講義中に指示します。</p>			

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
社会科学入門		通 期	4 単位	大 澤 健
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>「社会科学」と言われても少しとっつきにくいかもしれませんが、要するに社会の中の様々な問題について考え、それを学問としてまとめたものが社会科学です。</p> <p>それゆえ、「社会科学」は「社会問題」の存在と密接に結びついています。そして、われわれが現在暮らしている社会は市場経済ですから、社会問題の多くは市場経済の問題として考えることができます。</p> <p>この講義では、「社会科学」の入り口として様々な「社会問題」に触れてもらいたいと考えています。まずはビデオを見ながら問題の存在を知り、それがなぜ生じるのか、そして、どうしたら解決できるのか、を考えながら「社会科学」としてのものの考え方について知ってもらおうと思っています。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>講義の大半は実際にビデオを見てもらって、考えてもらうことに向けられます。その間に問題へアプローチしていくための考え方を講義していきます。およそ、2回に1回はビデオを見ることになります。</p> <p>【春学期】 1・公害問題、環境問題 2・労働問題 3・市場経済のパワー 社会を「進歩」させるのとしての市場経済</p> <p>【秋学期】 4・不況の発生、失業問題 5・戦争 6・市場経済と「国家」の役割 7・国家と民族問題</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>原則として試験の点数による。ただし、ビデオを見てもらった後に簡単なレポート（感想文）を提出してもらい、それを「加点」要素として評価します。まめにレポートを出しても良いですし、試験で勝負してもかまいません。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義の中で適宜指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>用いない。なるべくならば、講義にまめに出席してノートを充実させることを心がけてほしい。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
日本近代史		春学期集中	4 単位	佐 賀 朝
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義では、「近代大阪の都市社会史」というテーマのもと、近代の巨大都市である大阪を対象に、その社会構造の分析を試みる。</p> <p>特に、①都市住民の生活実態やそこで取り結ばれる多様な社会関係を具体的に明らかにすること、②巨大都市をノッペラボーなものとして捉えるのではなく、その構成要素であるさまざまな地域社会の特色や個性に注目すること、③フィールドワークや聞き取りも含めたさまざまな史料を多面的に活用し、分析すること、などを重視したい。</p> <p>まず前半では、明治期の都市内の地域社会として、遊廓、貧民窟と盛り場、工場地域などを取り上げて、その社会構造を分析していく。後半では、大正～昭和戦前期の都市社会について、米騒動や住宅問題などの都市社会問題、都市における「侠客」（きょうかく）の役割、大阪の町内会と学区、などを取り上げて論じていく。</p> <p>また、可能であれば、博物館の見学や大阪のまちを歩くフィールドワークを企画することも予定している。</p> <p>全体を通して、人間が生活・労働をいとなみ、文化が創造される場である地域社会の構造とその変化を的確に捉える方法を学び、現代の地域社会が抱える課題に向き合うための基本的な視点を獲得することを目標とする。</p>		<p>[講義計画]</p> <p>おおむね以下のようなテーマを論じる予定。</p> <p>明治期大阪の都市内地域 遊廓と地域社会—松嶋遊廓の成立— 長町と千日前—貧民移転問題を素材に— 工場と地域社会—造幣局を素材に—</p> <p>米騒動の勃発と方面委員制度の発足・展開 日本橋「裏長屋」の生活と不良住宅地区改良事業 大正～昭和期の「侠客」と都市社会 住宅問題と借家争議 大阪の町内会・学区と地域支配</p> <p>ほか</p>		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>出席、レポート、定期試験などにより総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>原田敬一『日本近代都市史研究』（思文閣出版、1997年） 広川禎秀編『近代大阪の行政・社会・経済』（青木書店、1998年） 芝村篤樹『日本近代都市の成立—1920・30年代の大阪—』（松籟社、1998年） 佐藤信・吉田伸之編『都市社会史』（山川出版社、2001年）</p>		
<p>[教科書]</p> <p>随時、プリント等を配付する。</p>		<p>以上のほか、授業のなかで随時、提示する。</p>		

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	01	通 期	4 単位	山 本 浩 二
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業は、利益を獲得することを目的として、さまざまな活動を行っている。個人企業の場合には店主が出資し、株式会社の場合には株主が出資し、また銀行などから借り入れたりして経営活動に必要な資金を調達する。調達した資金によって経営活動に必要な物品を購入したり、商業の場合には販売するための商品を購入し、製造業の場合には原材料などを購入して製品を生産し、そして商品や製品の販売が行われる。このような主たる経営活動以外にも企業は多くの活動を行っている。簿記は、企業が営むさまざまな経済活動を貨幣金額で記録する重要なシステムであり、経営学や会計学を学ぶにあたっての必須の基礎知識である。簿記の目的は、企業の財政状態と経営成績を明らかにすることである。本講義では、商業を営む企業の簿記である商業簿記を前提にして、複式簿記の基本原則、日常の取引の記録から決算にいたる簿記の一連の手続きを説明する。</p> <p>簿記は、資格としても役立つ。日本商工会議所主催の検定試験は年に3回行われている。検定試験合格に必要な知識を含めて、簿記と会計の基本知識を講義したい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>前期 ①複式簿記の計算原理（損益法と財産法） ②複式簿記の計算構造 ③勘定と記帳 ④試算表、精算表 ⑤決算</p> <p>後期 ①個別勘定科目の処理－現金、当座預金 ②個別勘定科目の処理－商品 ③個別勘定科目の処理－売掛金、買掛金 ④個別勘定科目の処理－手形、その他の勘定 ⑤決算手続きと決算整理事項</p>			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>前期・後期の各期末試験で評価する。日商検定3級以上の合格者は成績評価にあたって配慮する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>ニューコンセプト日商簿記検定試験商業簿記3級、税務経理協会</p> <p>そのほか、必要に応じて指示する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正、徐龍達、堀友章、全在紋共著『現代簿記論』中央経済社</p> <p>ニューコンセプト日商簿記検定試験商業簿記ワークブック3級、税務経理協会</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
簿記	02	秋学期集中	4 単位	近 藤 健 司
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>企業は、複式簿記の原理を使って、日々の取引を記録・計算・整理し、その結果作成される財務諸表を通して、自らの財政状態と経営成績を把握するとともに、債権者・株主・税務当局などの利害関係者に必要な会計情報を伝達する。</p> <p>本講義では、初めて簿記を学習する学生を対象として、初級の商業簿記を講義する。</p> <p>簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習問題を解く学習を中心に、つとめて実践的に授業を進めたい。学生諸君も受身にならず、積極的に授業に参加してほしい。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複式簿記の計算原理・資産・負債・資本と貸借対照表、費用・収益と損益計算書、財産計算と損益計算の統合 2 複式簿記の計算構造・取引・勘定・仕訳帳・元帳、試算表、決算、 3 勘定科目各論・現金・預金、仕入・売上、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形、その他の勘定、 4 決算・決算整理、8桁精算表、損益計算書、貸借対照表 5 帳簿組織・伝票式会計 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>定期考査の成績に出席状況を加味して、総合的に評価する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>新井清光・渡部裕巨（編著）「新検定簿記ワークブック3級」（中央経済社）</p>			
<p>[教科書]</p> <p>中田信正・徐龍達・堀友章・全在紋（共著）「現代簿記論」（中央経済社）</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（外国直接投資と発展途上国）		通 期	4 単位	カ 何 イ 為
【講義概要・学習目標】 世界における直接投資の大部分は先進国間での直接投資であるが、発展途上国の中でも特にアジア諸国は多くの直接投資を引き付けることに成功した。直接投資は受け入れ国の発展途上国に対してどのような影響を与えているだろうか。本講義では、中国を中心に考えたい。	【講義計画】 前期：直接投資が発展途上国の経済発展に積極的な役割を果たしていることを踏まえて、直接投資の定義及び発展途上国におけるその経済的な役割に関する理論を講義する。 後期：中国経済における直接投資のインパクトについて概括的な説明を行う。			
【成績評価の方法】 評価は出席、レポートをもって行う。	【参考文献】 適宜指定する。			
【教科書】 内藤 昭「中国の市場経済化と日中経済競争」（学文社）とプリントを併用する。				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 （現代日本産業論）		通 期	4 単位	富 澤 修 身
【講義概要・学習目標】 現代の日本産業は、米国の基準とアジア、特に中国の基準が押し寄せるなかで、日本の基準のあり方を模索している。一言でいえば、構造調整の渦中にある。この過程で、大企業と中小零細企業の関係の変化、中央集権から地方分権への行政の流れ、日本的労使慣行の変化など大きな変更が利害対立を伴いつつ進行している。 講義では、基礎理論を踏まえつつ、構造調整の内容について企業、産業、産業構造の点から論じる。	【講義計画】 序章 1 分析方法 2 諸問題 第1編 大競争下の産業、企業、産業構造 I 産業組織の変化 II 工業企業の特徴と矛盾 III 変化する産業構造 第2編 大競争時代の日本産業の構造調整			
【成績評価の方法】 定期試験の成績とレポートの内容を総合して評価する。	【参考文献】 なし			
【教科書】 富澤修身著『構造調整の産業分析』（創風社）				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講 (太平洋戦争期の戦時経済)		通 期	4 単位	佐々木 和 子
〔講義概要・学習目標〕 太平洋戦争下の日本の戦時経済について概観する。航空機工業や石油工業などを中心に、太平洋戦争期の日本経済の発展と崩壊の過程を考察する。経済活動や国民生活を統制下においた国家総動員体制についても検討する。		〔講義計画〕 1、日本の戦時経済と太平洋戦争 2、日本の石油産業 3、日本の航空機工業 4、国家総動員体制 以上の様な項目に留意しながら講義をおこなう。		
〔成績評価の方法〕 定期試験の成績と平常成績とで総合的に評価する。		〔参考文献〕 『現代史資料 39、太平洋戦争 5』 (1984 年) 『日本における戦争と石油』 (1986 年)		
〔教科書〕				

《インテグレーション科目》

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担当チーフ
経済学特講 —証券の基礎知識—		春 学 期	2 単位	津田和夫
〔講義概要・学習目標〕 本講座は、本学では初めての試みとして、日本の代表的証券会社である野村証券株式会社の専門講師陣による12回にわたるインテグレーション講座である。 長引く不況、超低金利という予想を超えた厳しい経済環境にあって、証券の知識や資産運用の仕方をあらためて勉強しようとする機運が急速に高まっている。 また、確定拠出年金制度の導入や、預金のペイオフ解禁を控え、日常生活の上でも、証券知識の向上や実務経験が必要とされるに至っている。 そこで、このような要望に応えるため、このほど本講座の開講が実現したわけである。 講義計画はかなり専門的な部分も含まれるが、基礎的な知識の習得も出来るように配慮されており、卒業して実社会へ出たときにも十分に活用できる内容が豊富に含まれている。 多くの学生の聴講を期待している。 尚、講師名は2002年4月の第1回の講義の時に開示される予定 開講日は木曜の3時限	〔講義計画〕 「資本市場とグローバル証券ビジネス」 第一部 証券市場と資本市場、 1、証券市場の役割 2、経済成長と金融・資本市場 3、証券市場規制と投資者保護の潮流 第二部 資産運用の考え方 4、資産運用の基礎知識 5、ライフプランニングの考え方 第三部 証券コアビジネスの理論と実践 6、エクイティ・ビジネス 7、フィックスインカム・ビジネス 8、アセットマネジメント・ビジネス 9、投資銀行ビジネス 10、ベンチャーキャピタルの現状 第四部 リテール証券ビジネスの現状 11、リテール証券ビジネス総論 12、ITとリテール証券ビジネスの展望			
〔成績評価の方法〕 出席と期末試験 (出席調査方法については受講生の数により別途策定する)		〔参考文献〕 未定		
〔教科書〕 未定				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（経済学検定試験対策講座A）		春学期	2単位	中村勝之
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>今年の3月に『経済学検定試験（ERE）』の第1回試験が実施された。これまで経済学教育で得た知識が資格や免許といった形で結実してこなかったが、この試験の実施によって、経済学的知識が資格として認知される（であろう）時代が到来した。ただこの制度自体が始まったばかりなので、EREがどのような職種に適用できるのか、あるいはどのような目標に対して設定されるのかは、現段階では議論の分かれるところである。しかし、次の点は強調できるであろう。第1に、学生がこれまで得た経済学的知識を客観的に評価できる材料を、この検定試験は提供してくれる。第2に、出題形式が公務員試験（地方上級、国家Ⅰ種・Ⅱ種など）と同様のものなので、公務員試験にむけた練習の場を提供してくれる。</p> <p>そこで本講義ではEREを目指そう、もしくはこれに興味のある学生に対して、EREの観点からこれまで受講してきた学部の講義内容をおさらいしようとするものである。ご存知の方もおろうが、EREの出題範囲は「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「統計」「財政」「金融」「国際経済」「経済事情」と多岐にわたっている。ここでは出題頻度（配点）の高い前2者（ミクロ・マクロ）を取り上げていくことにしたい。また他の講義科目との重複を避ける意味で、サンプルとなる問題を取り上げて、これを解説していくという講義スタイルとしたい。ただし本講義は完全な「ERE対策」という位置付けではない（それをするならば時間がなさ過ぎる）ので、本気で目指すならば、講義以外に自分でかなりの努力をしてもらいたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>開講時に具体的な日程を示す。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に、適宜に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>開講時に指示する。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
経済学特講（経済学検定試験対策講座B）		秋学期	2単位	荒木英一
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>前期（経済学検定試験 ERE 対策講座A）を引き継ぐかたちで、ERE 出題範囲のなかから、ミクロ・マクロ・統計の分野を中心に講義をすすめていく。</p> <p>ミクロ・マクロの分野については、前期（ERE対策講座）と同じテキストを用いて、問題演習を中心に理解を深めていこう。</p> <p>統計の分野については、出題範囲の概略を講義したのち、やはり問題演習を中心に理解を深めたい。</p> <p>また、時間的に余裕があれば、他分野についても、ゲスト講師を招いて概説をお願いしたいと考えている。</p> <p>ERE の出題形式・内容は、当面、公務員試験（地方上級、国家Ⅰ、Ⅱ種）と同様のものになると予想されるが、いずれにしても、付け焼き刃の知識では歯がたたず、日頃の学習の積み重ねが必須である。講義では、受講者の自学自習のためのガイドラインを示すことはできるが、受講者自らの努力がなければ成果は期待できない。相応の予・復習が必要となることを覚悟したうえで受講をお願いしたい。</p>	<p>[講義計画]</p> <p>開講時に具体的な日程を示す。</p>			
<p>[成績評価の方法]</p>	<p>[参考文献]</p> <p>講義中に、適宜に紹介する。</p>			
<p>[教科書]</p> <p>春学期の経済学特講（経済学検定試験対策講座A）と同一のもの。</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
コンピュータ利用II		秋学期集中	4 単位	藤間 真
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>本講義の目的は、基本的なコンピュータ・リテラシーを修得しているものに対し、さらに高度なコンピュータ利用技術を伝授することにある。コンピュータ技術は、現在凄まじい勢いで進化し、変化している。よって本講義では、単純に現在何が出来るかを伝授するだけでなく、新しい技術に対応するための素養の伝授、計算機を使って自分は何をするのかということへの考察も行う。</p> <p>履修登録に際しては、下記の点を理解した上で登録されたい：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な計画は右欄の通りであるが、コンピュータの世界の変化と実習の進展の状態に応じて変更することもありうる。 ・情報センターの施設を用いた実習が主体となる。 ・初心者に対するコンピュータリテラシーの伝授を目的とはしていない。コンピュータの経験を持たないものにとってはハードな講義となる。 ・実習主体の講義であり、自習も必要となる。 ・基本的には連絡は電子メールで行う。 		<p>[講義計画]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを作ってみる。 ・プレゼンテーション・ソフト ・情報検索の基礎 ・unixの基礎 ・オブジェクト指向とJava 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>実習の提出物を中心に総合的に評価する。</p>		<p>[参考文献]</p> <p>進行状況に応じて指示する。</p>		
<p>[教科書]</p> <p>10日でおぼえるJava入門教室、丸の内とら著、翔泳社</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
人工市場論 (旧経済学特講(人工市場論))		通 期	4 単位	橋 本 文 彦
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>演繹的な経済理論だけではうまく説明できない経済現象を分析する研究手法として、コンピュータ・シミュレーションが近年注目されている。「人工市場」研究は、こうしたシミュレーションによる経済分析の主要な潮流である。人工市場研究では、コンピュータのなかに仮想の人工市場を構築し実験の場を設定して、被験者となる人間がこの仮想市場に参加したり、あるいは、自ら意志決定を行う仮想経済主体(マシンエージェント)をコンピュータのなかに作り出すことによって、多様な経済主体の相互依存関係をシミュレートしていく。この講義では、こうした人工市場研究の手法を理解することを最終目標として、コンピュータ・シミュレーションに関する講義と演習を行う。まず、社会経済シミュレーション分析の基礎を平易に解説する。次いで、人工市場の実験場に実際に参加することを通して、人工市場の面白さを体験してもらいたいと思う。その後、人工市場研究の手法理解へと進む。</p> <p>人工市場を構成するクライアント・サーバシステムの概略を説明した後に、簡単なマシンエージェントの作成に挑戦してみよう。ごく簡単な意志決定メカニズムから始めて、ニューラルネットや遺伝的アルゴリズムによる人工生命の構築手法についても解説を行いたい。演習は、主としてMicrosoft Excel と Visual Basic によるが、マシンエージェントの制作ではCやJavaによるプログラミング例も解説する。</p>		<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.シミュレーション事始め 2.企業戦略ゲーム、証券市場の科学 3.仮想株式市場への参加 4.人工生命とは 5.人工市場とは 6.マシンエージェントの制作 7.ニューラルネット入門 8.遺伝的アルゴリズム入門 		
<p>[成績評価の方法]</p> <p>講義中に指示した提出物と期末のレポートによって評価する</p>		<p>[参考文献]</p> <p>講義中に指示</p>		
<p>[教科書]</p> <p>特に定めない</p>				

科 目 名	クラス	講義区分	単位数	担 当 者
スポーツ文化論		秋学期集中	4単位	松 浦 道 夫
<p>[講義概要・学習目標]</p> <p>まず、現代社会の特徴と体育・スポーツの発展、関係を概観します。そしてその背景の思想・精神・文化を探り、スポーツとの関連を考察します。とくに日米英の文化をスポーツを通して比較してみます。いいかえれば、スポーツ文化論を通して、集団としての人間、社会を理解することをねらっています。</p>	<p>[講義計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の体育・スポーツ 2. 近代イギリススポーツ小史 3. イギリススポーツと社交の精神 4. スポーツ教育とギャンブルスポーツ 5. アメリカスポーツ小史 6. アメリカスポーツとメンバーチェンジの思想 7. プロスポーツ発展の意味するもの 8. 近代日本のスポーツ小史 9. 日本スポーツの勝敗感 10. 国際化と日本的スポーツの変化 			
<p>[成績評価の方法]</p> <p>適宜エッセイを課し、学年末テストと合わせて評価します。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>授業の進行に合わせて知らせます。</p>			
<p>[教科書]</p>				

